

3. 稲沢市教育委員会点検・評価シート（令和3年度）

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
1	教育委員の活動状況	庶務課
施策の目標 (基本方針)	教育委員会は、住民の意思を反映し、地域の実情に応じた教育行政を推進していくため、教育委員として職務遂行に必要な知識を得、意見交換を行い、重要案件について審議・決定を行う。	
《これまでの取組状況》 ○教育委員会会議を毎月1回開催し、教育に関する一般方針の策定、教職員の人事内申、及び職員の任命、教育委員会規則の制定・改正、教育予算について意見の申出、社会教育委員その他特別職員の委嘱等を審議・決定した。 ○愛知県市町村教育連合会、全国都市教育長会、東海北陸都市教育長会、尾張部都市教育長会の総会・会議及び行政視察研修などに参加した。 ○平成20年度より外部評価委員会を設置し、教育委員会の活動の自己点検・評価を実施。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	教育委員の選任状況		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和三十一年法律第六十二号)の改正に伴い、平成27年12月24日からは、市長が議会の同意を得て任命する教育長及び4人の委員で組織されており、教育長の任期は3年、委員の任期は4年である。これにより教育委員の数が5人から4人へ減員となったものの、教育行政を市民の立場からチェックする機能を強化するため、定数条例を制定し、平成29年2月1日から教育委員を5人体制に戻した。 委員の選任にあたっては、同法により年齢、性別、職業等に偏りが無いよう配慮し、委員に保護者である者を含まなければならない。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	1人の任期満了(9月30日)に伴い、10月1日に新たに1人が就任。 【委員構成】元小中学校校長1人、医師会代表1人、保護者代表1人、会社役員1人、元小学校教頭1人の5人(男性2人、女性3人)	1人の任期満了(1月31日)に伴い、2月1日に新たに1人が就任。 【委員構成】元小中学校校長1人、医師会代表1人、保護者代表1人、会社役員1人、元小学校教頭1人の5人(男性3人、女性2人)	1人の任期満了(10月23日)に伴い、10月24日に再任。 【委員構成】元小中学校校長1人、医師会代表1人、保護者代表1人、会社役員1人、元小学校教頭1人の5人(男性3人、女性2人)
令和3年度の変更点・改善点			
事業名②	教育委員会会議の開催		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	稲沢市教育委員会会議規則により、毎月1回開催し、重要案件についての審議・決定を行う。人事案件等、必要に応じて臨時に開催する。		
年 度	令和元年(暦年)	令和2年(暦年)	令和3年(暦年)
実施状況	定例会 12回 臨時会 2回(人事案件) 審議・議決 55件	定例会 12回 臨時会 14回(人事・予算案件等) 審議・議決88件	定例会 12回 臨時会 8回(人事・臨時休館案件等) 審議・議決70件
令和3年度の変更点・改善点	稲沢市教育委員会教育長に対する事務委任規則(昭和34年稲沢市教育委員会規則第4号)について、教育委員会の権限に属する事務の委任等について整理するとともに、臨時代理の規定を追加する一部改正を実施した。		
事業名③	教育委員会会議の公開		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	地方教育行政の組織及び運営に関する法律、稲沢市教育委員会会議規則により会議を原則公開する。		
年 度	令和元年(暦年)	令和2年(暦年)	令和3年(暦年)
実施状況	開催日時をホームページで周知 会議録をホームページで公開 傍聴者数延23人	開催日時をホームページで周知 会議録をホームページで公開 傍聴者数延21人	開催日時をホームページで周知 会議録をホームページで公開 傍聴者数延24人
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症対策として、アルコール手指消毒液の設置やマスク着用を義務づけ、傍聴者を受け入れた。		

事業名④	事務局、学校及び市長部局との連携		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	保護者や地域住民の意向を踏まえた教育行政を推進するため、校長会や総合教育会議を通して情報提供や意見交換を行い、意思疎通を図る。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	所管施設（学校等）への訪問 校長会との意見交換・情報提供 総合教育会議の開催	所管施設（学校等）への訪問 校長会との意見交換・情報提供 総合教育会議の開催	所管施設（学校等）への訪問 校長会との意見交換・情報提供 総合教育会議の開催
令和3年度の変更点・改善点	学校訪問については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、令和2年度に続いて訪問を中止したり、訪問時に一部内容を省略することになったが、別日程で担当者が学校を訪問し、学校からの要望等を聴取することで、学校訪問中止の影響を最小限に抑えることができた。		
事業名⑤	研修会等への参加		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	知識向上及び他市との情報交換等を行うため、研修会等に参加する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	行政視察研修（大阪府高槻市：「タブレット端末を活用したICT教育について」「今城塚古代歴史館・今城塚古墳の施設運営並びに満足度向上のため取組及び工夫等について」、摂津市：「タブレット端末を活用したICT教育について」） 愛知県市町村教育委員会連合会（総会、理事会）、全国都市教育長協議会、東海北陸都市教育長協議会、尾張部都市教育長会議	行政視察研修は隔年実施のため、令和2年度は実施せず 愛知県市町村教育委員会連合会（総会）、全国都市教育長協議会、東海北陸都市教育長協議会、尾張部都市教育長会議	行政視察研修は新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、視察先への依頼等が困難なため、実施せず。 愛知県市町村教育委員会連合会（総会）、全国都市教育長協議会、東海北陸都市教育長協議会、尾張部都市教育長会議
令和3年度の変更点・改善点	愛知県市町村教育委員会連合会、東海北陸都市教育長協議会は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、令和2年度に続き、書面開催であった。全国都市教育長協議会は中止及び延期であった。		
事業名⑥	教育委員会の活動の自己点検・評価		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に伴い、その権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検・評価を行い、その報告書を議会に提出するとともに公表する。また、点検・評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	平成30年度主要施策（32施策89事業）の取組について実施報告書を教育委員会および議会へ提出、ホームページに掲載（8月）	令和元年度主要施策（31施策84事業）の取組について実施報告書を教育委員会および議会へ提出、ホームページに掲載（8月）	令和2年度主要施策（31施策83事業）の取組について実施報告書を教育委員会および議会へ提出、ホームページに掲載（8月）
令和3年度の変更点・改善点	点検評価シートの実施状況欄について、前年度との比較がしやすいように、数値を記載できる項目については可能な限り数値を記載するよう改善した。		

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○定例会等の開催については、引き続き新型コロナウイルス感染症対策が求められる中での開催であったが、感染対策の徹底等により、特に傍聴制限を行うことなく開催することができた。 ○各種会議、研修、視察については感染拡大防止のため、大半が書面開催や中止、延期となった。
《課題および今後の方針》
○定例会等の開催に際しては、引き続き感染症対策を徹底して開催していく。 ○研修等への参加については、他市との情報交換や知識向上に有益であり、今後も継続して実施していく。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
2	校区再編の検討	庶務課
<p>施策の目標 (基本方針)</p>	<p>区画整理事業等の進展により、下津小学校では児童数が急増し、平成31年度には1,000人を超え、過大規模校になることが想定され、学校管理運営上支障をきたす恐れがある。一方、その近隣には、少子高齢化による影響で児童数に対して学校規模に余裕のある学校もある。このことから、既存の学校施設を有効に活用し、下津小学校の過大規模化を解消するため、通学区域の見直しが必要と考えられる。 また、治郎丸中学校においても、今後生徒数増加が見込まれるため通学区域の見直しが必要になると考えられる。 そのため通学区域審議会を設置し答申をいただき、校区再編事務を進めていく。</p>	
<p>《これまでの取組状況》</p> <p>○通学区域審議会から平成29年2月28日に答申を受けた。その内容は「通学時の安全性を考慮し、現行よりも通学距離が遠くならない範囲で、平成31年度から原則として行政区単位での変更を行う」ことを旨として、小学校区については、エムズシティ稲沢、ミッドレジデンス稲沢及びプレミアムフォート稲沢の3行政区を稲沢東小学校区に変更し、中学校区については、古杣北、古杣中、古杣南、駅南、稲沢駅前住宅、稲沢フラットの6行政区を稲沢中学校区に変更することが、最良の方法であるとの内容である。</p> <p>○市教育委員会事務局としては、この答申を踏まえ今後の対応を協議し、校区再編に向けて事務を進めることとした。</p> <p>○平成29年4月定例教育委員会にて、通学区域審議会からの答申に沿って、今後の事務を進めていく承認を得る。</p> <p>○平成29年度は校区再編対象地区、関係団体、体育振興会等に周知の文書を配布、説明会、意見交換会等を複数回行った。</p> <p>また、愛知県一宮建設事務所と夢逢橋を通学路で利用する際の安全性確保について協議、その後安全対策に係る要望書を提出した。</p> <p>○意見交換会等で3マンション保護者から兄弟姉妹のいる家庭について、学校選択の予備調査の要望が出たため、平成29年末から平成30年1月に実施した。</p> <p>○予備調査の集計結果について、平成30年3月に市のホームページで公表するとともに該当世帯に戸別配布した。</p> <p>○平成29年度に行った説明会等での保護者等からの要望等についてとりまとめ、中間報告として市ホームページで公表した。</p> <p>○平成30年3月19日に、3マンションの子ども会役員（平成29年度、平成30年度予定）等に説明会を行った。</p> <p>○平成31年4月1日から、小学校区については、エムズシティ稲沢、ミッドレジデンス稲沢及びプレミアムフォート稲沢の3行政区を下津小学校区から稲沢東小学校区に変更し、中学校区については、古杣北、古杣中、古杣南、駅南、稲沢駅前住宅、稲沢フラットの6行政区を治郎丸中学校区から稲沢中学校区に変更した。</p> <p>○エムズシティ稲沢、ミッドレジデンス稲沢及びプレミアムフォート稲沢の3行政区について、当初は、低学年中心の通学団となるため、令和元年度から登下校時の付き添い業務を委託し、児童の安全確保を図った。（令和3年度までの3年間の予定）</p>		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	通学区域変更の関係機関等との調整			<input type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	<p>・通学区域変更に係る関係機関と話し合い、調整を図る。</p> <p>・校区見直しの際に配慮が必要な兄弟姉妹のいる世帯に対して希望校調査を行い、結果を学校教育課に伝え、「指定校変更」、「就学通知」等事務手続きを円滑に進める。</p>					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	<p>・校区見直しの際に配慮が必要な兄弟姉妹のいる世帯に対して希望校調査を実施。</p> <p>・調査結果を受け、学校教育課で「指定校変更」、「就学通知」等事務手続きを実施。</p> <p>・エムズシティ稲沢、ミッドレジデンス稲沢及びプレミアムフォート稲沢の3行政区について、登下校時の付き添い業務を委託。</p>	<p>・校区見直しの際に配慮が必要な兄弟姉妹のいる世帯に対して希望校調査を実施。</p> <p>・調査結果を受け、学校教育課で「指定校変更」、「就学通知」等事務手続きを実施。</p> <p>・エムズシティ稲沢、ミッドレジデンス稲沢及びプレミアムフォート稲沢の3行政区について、令和元年度に引き続いて登下校時の付き添い業務を委託。</p>	<p>・校区見直しの際に配慮が必要な兄弟姉妹のいる世帯に対して希望校調査を実施。</p> <p>・調査結果を受け、学校教育課で「指定校変更」、「就学通知」等事務手続きを実施。</p> <p>・エムズシティ稲沢、ミッドレジデンス稲沢及びプレミアムフォート稲沢の3行政区について、令和2年度に引き続いて登下校時の付き添い業務を委託。</p>			
令和3年度の変更点・改善点	<p>令和元年度から実施している通学団安全確保業務について、令和3年度で終了となるため、付添業務終了後に児童自らが安全確認しながら登校できるよう、保護者等の意見も踏まえながら、年度途中で業務内容の見直しを実施した。</p>					

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
<p>○事故等もなく無事に通学することができた。</p> <p>○令和3年度も3マンションの新1年生等について通学先のアンケート調査を実施し、兄弟が下津小学校に通学していることを理由とした下津小学校への通学先変更が1名あった。</p>
《課題および今後の方針》
<p>○通学団安全確保業務については、予定どおり令和3年度を持って終了する。通学先の意向調査については、引き続き実施していく。</p>

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
3	学校施設整備事業	庶務課
施策の目標 (基本方針)	○保護者、学校関係者等からの要望が多い小中学校普通教室等の空調設備（エアコン）設置について、市長公約により、速やかに実現する。	
《これまでの取組状況》 【過去の経緯・取組み状況】 ＜ 空調設備（エアコン）設置 ＞ ○平成29年度、空調設備設置済みの平和中学校を除く中学校8校の普通教室等に空調設備（エアコン）を設置するため、設計業務を委託。 ○平成30年度、中学校8校の普通教室等に空調設備（エアコン）を設置。 ○平成30年度、小学校23校の普通教室等に空調設備（エアコン）を設置するため、設計業務を委託。 ○令和元年度、小学校23校の普通教室等に空調設備（エアコン）を設置。 ○令和元年度、平和中学校の空調設備（エアコン）を更新するため、設計業務を委託。 ○令和2年度、平和中学校の空調設備（エアコン）を更新 ○令和2年度、平和中学校を除く中学校8校の音楽室に空調設備（エアコン）を設置。 ○令和3年度、小学校23校の音楽室に空調設備（エアコン）を設置。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	小中学校普通教室等の空調設備（エアコン）設置事業			<input type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	・小学校23校の音楽室に空調設備（エアコン）を設置する。					
事業計画	・令和3年度：小学校23校の音楽室空調を設置。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校23校分工事費・監理料（繰越明許） 予算金額1,226,300千円 契約金額 合計1,090,908,500円 ・平和中学校分更新工事設計業務（当初予算） 予算金額5,400千円 契約金額合計2,068,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和中学校空調設備更新（繰越明許） 予算金額142,000千円 契約金額133,100,000円 ・中学校音楽室空調整備（8校）（予算現額） 予算金額43,707千円 契約金額43,706,300円 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校音楽室空調整備（23校）（予算現額） 予算金額100,000千円 契約金額95,524,000円 			
令和3年度の変更点・改善点	発注時期や発注方法を工夫することで、主要な工事を夏休み期間中に終わることができ、授業への影響を最小限に抑えることができた。					

事業名②	長寿命化等の推進	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input type="checkbox"/> 継続
事業概要	・老朽化した学校施設について、屋上防水、外壁修繕、ライフライン設備の改修を中心とした改修を実施することで、学校施設の長寿命化を図る。	
事業計画	・令和3年度 千代田小学校長寿命化改修工事設計業務委託 ・令和4年度 千代田小学校長寿命化改修工事予定 領内小学校、法立小学校長寿命化改修工事設計業務委託予定	
年 度	令和3年度	
実施状況	・千代田小学校長寿命化改修工事設計業務委託 契約金額 7,656,000円 ・千代田小学校アスベスト調査業務 契約金額 495,000円 上記調査の結果、アスベストの含有が確認されたため、令和4年度に長寿命化改修と合わせてアスベスト除去工事を実施する予定。	
事業名③	給食施設整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input type="checkbox"/> 継続
事業概要	・旧稲沢市内の学校調理場14校を集約し、新たに共同調理場を整備する。	
事業計画	・令和3年度：基本設計、令和4年度：実施設計 ・令和5・6年度：建築工事 ・令和7年度：2学期から稼働開始予定	
年 度	令和3年度	
実施状況	・（仮称）井之口調理場新築工事設計業務委託料（継続費設定） 予算金額 53,400,000円 令和3年度 14,400,000円（基本設計） 令和4年度 39,000,000円（実施設計） 契約金額 28,050,000円 令和3年度 7,012,500円（基本設計） 令和4年度 21,037,500円（実施設計）	

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○空調整備については、小学校音楽室の空調整備を計画どおり実施し、現時点で計画している教室等への空調整備はすべて終わることができた。
○（仮称）井之口調理場新築工事については、令和3年度に基本設計を予定どおり実施できた。
《課題および今後の方針》
○空調整備については、今後学校配膳室への空調整備を実施していく。また、将来的な特別教室等への空調整備に備え、受変電設備の容量調査を実施していく。
○（仮称）井之口調理場新築工事については、令和4年度に引き続き実施設計を行うほか、令和5年度からの工事着工に備え、ガス配管、水道配管の移設等の準備を実施していく。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
4	学校給食の充実	庶務課
施策の目標 (基本方針)	児童生徒が望ましい食習慣を身につけることができるよう、食に関する指導の充実を図る。バランスの取れた献立の実施や地場産の導入など、給食内容の充実を図る。給食施設設備の充実を図るとともに、衛生管理の強化に努める。	
《これまでの取組状況》		
<p>○学校給食を通じて、各学年に応じた食の指導を充実するとともに、「給食だより」や「献立表」を配布し、食に関する知識の普及啓発に努めている。</p> <p>○地場産の米・野菜を取り入れた郷土料理を行うなど、地産地消の推進を図っている。</p> <p>○食物アレルギー対策として、加工品等の詳しい配合を記入した資料を提供するとともに、除去食を実施している。</p> <p>○衛生管理に関する意識向上を図るための衛生講習会及び技術の向上を図るための調理講習会を実施している。</p> <p>○国、県からの指導の元に稲沢市学校給食等アレルギー対応検討委員会を開催し、市教育委員会としてアレルギー対応を行っている。</p> <p>○愛知の郷土料理を計画的に取り入れ、郷土愛を高めるとともに、郷土の料理の存続につなげている。</p>		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	献立立案及び調理指導			□新規	□重点	☑継続
事業概要	栄養基準量に基づいた献立の立案及び衛生面を考慮した調理作業を行う。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー「ギリシャ給食デー」を6月4日に全小中学校で開催した。オリンピックへの機運を食を通じて高めるため、ギリシャ料理を取り入れた献立を提供した。平和中学校では、ギリシャ駐日大使ご夫妻を招き市長、生徒等と給食を共にし歓談した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のためパンを個包装とした。また、給食開始当初は品数を減らす等配膳に考慮した献立にした。 ・例年夏季休業となる期間の給食は、食中毒予防も考慮し和え物の提供を中止した。 ・オリンピックへの機運を高めるため、世界の料理を多く取り入れた献立を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの機運を高めるため、1学期は世界の料理を多く取り入れた献立を提供した。 ・2学期以降は、愛知県の郷土料理及び日本全土の郷土料理等を紹介、提供した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のためパンの個包装を継続した（令和4年2月末まで）。 			
令和3年度の変更点・改善点						
事業名②	児童生徒への食に関する指導			□新規	□重点	☑継続
事業概要	食に関する指導を行うことにより、児童生徒一人一人が望ましい食習慣を身につけ、食事を通して自分の健康管理ができるようにすること、また、楽しい食事や給食活動を通して、豊かな心を育成し、社会性を涵養する。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭・学校栄養職員が食に関する指導を実施 家庭科92回、総合的な学習13回、学級活動49回、その他の教科24回、個別指導10回、給食時間の指導927回、その他45回 計1,160回 ・「食に関する全体計画」作成 地産品を使用した日には、給食だよりや放送資料等で指導を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭・学校栄養職員が食に関する指導を実施 家庭科46回、総合的な学習5回、学級活動64回、その他の教科3回、個別指導8回、給食時間の指導609回、その他36回 計771回 ・「食に関する全体計画」作成 地産品を使用した日には、給食だよりや放送資料等で指導を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭が食に関する指導を実施 家庭科71回、総合的な学習8回、学級活動86回、その他の教科30回、個別指導15回、給食時間の指導676回、その他40回 計926回 ・「食に関する全体計画」作成 地産品を使用した日には、給食だよりや放送資料等で指導を実施 			
令和3年度の変更点・改善点	「食に関する全体計画」を基に指導を行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定通りに実施できなかった。					

事業名③	啓発事業		□新規 □重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	学校給食を通じて食に関する関心や理解を深めるため、様々な啓発事業を実施する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校においてギリシャ給食デーを実施（1回） ・学校給食センター・調理場の施設見学実施 祖父江町学校給食センター 牧川小2年 32名 牧川保育園 71名 丸甲保育園 26名 平和町学校給食調理場 法立小2年 32名 稲沢東部学校給食調理場 稲沢東小1年 132名 計293名 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食センター・調理場の施設見学実施 祖父江町学校給食センター 牧川小2年 23名 平和町学校給食調理場 法立小2年 32名 計55名 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の推進を目的として、2月8日に市内全校で有機バナナを提供した。 ・学校給食センター・調理場の施設見学実施 祖父江町学校給食センター 牧川小2年 26名 計26名
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設見学は例年通り実施されなかった。		
事業名④	地産地消の推進		□新規 □重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	生産者の顔が見える地場産の米や野菜を取り入れていくことで、地域の食文化への関心を高めるとともに、食に関する指導を充実させる。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 野菜は給食週間等で日にちを決めて、地産品を市内全調理施設で一斉使用。 6月21日 :なす、トマト 11月29日 :ぎんなんきしめん、みつば、ももカブ 12月9日 :ももカブ 計3回、5品目 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜は給食週間等で日にちを決めて、地産品を市内全調理施設で一斉使用。 11月30日 :ぎんなんきしめん、ももカブ 12月9日 :ももカブ 1月12日 :ももカブの切り干し 計3回、3品目 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜は給食週間等で日にちを決めて、地産品を市内全調理施設で一斉使用。 11月30日:ぎんなんきしめん、ももカブ 12月17日:ももカブ 1月26日:ももカブの切り干し 1月28日:稲沢の冬野菜スープ(人参、白菜、玉葱、ねぎ)
令和3年度の変更点・改善点	市内で一斉に使用する地産品を除き、給食で使用する地産品は各調理施設毎に調達することとした。		
事業名⑤	食物アレルギーへの対応		□新規 □重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	医師の診断により保護者から依頼があった場合には、資料の提供及び除去食の対応を行う。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・加工品等の資料提供 ・除去食については、学校生活管理指導表に基づいて保護者と面談を実施したうえで、特定原材料7品目について実施(除去食対応 小学校:141名、中学校:58名、計199名) ・稲沢市学校給食等アレルギー対応検討委員会を開催、マニュアルを一部見直した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加工品等の資料提供 ・除去食については、学校生活管理指導表に基づいて保護者と面談を実施したうえで、特定原材料7品目について実施(除去食対応 小学校:165名、中学校:57名、計222名) ・稲沢市学校給食等アレルギー対応検討委員会を開催、マニュアルを一部見直した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加工品等の資料提供 ・除去食については、学校生活管理指導表に基づいて保護者と面談を実施したうえで、特定原材料7品目について実施(除去食対応 小学校:189名、中学校:52名、計241名) ・稲沢市学校給食等アレルギー対応検討委員会を開催、マニュアルを一部見直した。
令和3年度の変更点・改善点	稲沢市学校給食等アレルギー検討委員会を開催し、令和2年度に改定した「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」を一部改訂し、令和3年10月改定版として各学校に配付した。		

事業名⑥	食の安全・安心への取組			□新規 □重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	学校給食の安全性を守るために、食材の検査や調査を実施する。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・食材検査 単独校13品目 共同調理場27品目 ・食器溶出検査 4品目 年1回 ・調理施設衛生管理検査 単独校1校・共同調理場3施設 ・放射性物質検査 市独自で食材を委託し学期ごとに行う。 ・ノロウイルス高感度検査 給食従事者に10月から3月まで月に1回、計6回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材検査 単独校11品目 共同調理場28品目 ・食器溶出検査 4品目 年1回 ・調理施設衛生管理検査 単独校1校・共同調理場3施設 ・放射性物質検査 市独自で食材を委託し学期ごとに行う。 ・ノロウイルス高感度検査 給食従事者に10月から3月まで月に1回、計6回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材検査 単独校9品目 共同調理場27品目 ・食器溶出検査 4品目 年1回 ・調理施設衛生管理検査 単独校1校・共同調理場3施設 ・放射性物質検査 市独自で食材を委託し年1回行う。 ・ノロウイルス高感度検査 給食従事者に10月から3月まで月に1回、計6回行う。 	
令和3年度の変更点・改善点	放射性物質検査は、近隣の検査状況を踏まえ年1回とした			
事業名⑦	職員研修			□新規 □重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	安全で美味しい給食を実施するため、栄養教諭・学校栄養職員・調理員の技術及び資質の向上を図る。 食に関する指導を充実させるため、栄養教諭・栄養職員の資質の向上を図る。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市衛生講習会 年1回 ・県衛生講習会 年1回 ・新献立調理講習会 年2回 ・栄養教諭・学校栄養職員自主研修会 年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・新献立調理講習会 年3回 (書面開催) ・栄養教諭・学校栄養職員自主研修会 年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・新献立調理講習会 年3回 (書面開催) ・県衛生講習会 年1回 ・栄養教諭自主研修会 年3回 	
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市衛生講習会、新献立調理講習会は書面開催。			

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○オリンピックを意識した世界の料理から愛知県の郷土料理に加え、有機バナナ等児童生徒の食に関する関心を高める様々な献立を提供できた。
○新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、食に関する指導を昨年度より多く実施することができた。
《課題および今後の方針》
○地産地消の食材調達について愛知西農業協同組合の協力を得るとともに、生鮮食材納入業者にも協力を得ることにより食材調達を図る必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
5	給食のあり方検討	庶務課
施策の目標 (基本方針)	学校給食施設の今後のあり方の検討	
《これまでの取組状況》		
<p>○稲沢東小学校は平成23年度までに老朽化した屋内運動場、校舎棟の改築が終了した。給食棟は昭和42年建築の古い施設のまゝ使用していたが、平成27年度に親子方式の稲沢東部学校給食調理場として改築された。</p> <p>○稲沢西小学校は平成25年度から屋内運動場、平成26年度から校舎棟の改築が始まり平成28年度には完了したが、給食については他校または学校給食センターからの搬入として計画されていた。</p> <p>○平和町学校給食センターは昭和48年12月建設で老朽化が進行しており計画的に補修していたが、設備等も含め限界に近づいていたので、平成28年度に平和中学校の敷地内に平和町学校給食調理場として移転改築された。</p> <p>○上記以外の旧稲沢市内の学校調理場の多くは昭和50年代前半までに建設されており、また下津地区の学校は区画整理事業が進行しているので児童数増加に対応しなければならない等、今後各学校で改築（建替）等が必要になると想定される。</p> <p>○上記の状況から給食業務における課題について、施設の老朽化に対応するための整備手法、正規調理員の退職不補充による高齢化と減少、これに伴う臨時調理員の増加、また、学校給食費の透明化と教員の多忙化解消を図るための給食費公会計化の推進など、多様な問題を段階的に解決し、安心安全でおいしい給食の提供を継続していくための指針として、令和3年3月に給食基本計画が策定された。</p> <p>○給食基本計画を指針として、給食業務における多様な問題を段階的に解決していくため、老朽化した旧稲沢市内の学校調理場14校を集約し、(仮称)井之口調理場の整備を推進する。また、将来的には4つの給食施設により効率的な給食の提供を可能とすべく、施設整備を推進する。</p>		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	給食基本計画の推進			<input checked="" type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 重点	<input type="checkbox"/> 継続
事業概要	給食費の公会計化、調理員退職不補充による正職員の減少、給食施設の老朽化といった多くの課題を体系的に、計画的に解決するため、昨年度策定した「給食基本計画」に基づいた取組を推進する。					
事業計画	(仮称)井之口調理場の整備(R7年度)、単独調理場の学校給食費の公会計化(R4年度)等					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	<p>・給食業務における課題について施設の老朽化に対応するための整備手法、正規調理員の退職不補充による高齢化と減少、また、学校給食費の透明化と教員の多忙化解消を図るための給食費公会計化の推進など、多様な問題の解決に向け給食基本計画策定委員会で検討した。</p>	<p>・給食業務における課題を段階的に解決していくため、給食基本計画策定委員会で検討を重ね、市民の幅広い意見を聞くためパブリックコメントを実施し、令和3年3月に給食基本計画を策定した。</p>	<p>・給食施設の老朽化に対応するため、給食基本計画の取組方針に基づき、(仮称)井之口調理場を整備するため、基本設計業務を委託した。</p> <p>・単独調理場の学校給食費の公会計化に向けた事前調整(事務手続きの整理、学校関係者等との調整、予算計上等)を実施。</p>			
令和3年度の変更点・改善点	給食基本計画に基づき新規共同調理場を整備するため設計業務を委託した。					

■ 教育委員会による評価(自己評価)

《令和3年度の実績・評価》
<p>○(仮称)井之口調理場の整備に向け、基本設計業務を終えることができた。</p> <p>○一部公会計化に向け、必要資料の作成及び関係各所への説明を行い、令和4年度から実施する体制を築いた。</p>
《課題および今後の方針》
<p>○「稲沢市給食基本計画」を指針として、新規調理場の建設や給食費の公会計化など給食が抱える諸問題を解決するため事業を推進していく。</p>

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
6	私学振興、補助	庶務課
施策の目標 (基本方針)	教育の機会均等の精神に基づき保護者負担の軽減を図るため、私立学校法人への必要な援助に努める。	
《これまでの取組状況》 ○私学振興補助事業によって、私学経営の安定化を図ることができた。 ○私立高等学校授業料補助事業によって、私立高校に子女を通わせる保護者の負担軽減を図ることができた。 ○教育の機会均等の精神に基づき、これらの事業を今年度も継続していく。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	私学振興補助事業		□新規 □重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・私立学校法人に対し生徒・園児などの規模に応じて助成を行い、教育条件の向上・私学経営の安定化を図る。 ・平成24年に稲沢市補助金等検討委員会から出された提言を受け、県内の他市の状況等を参考に、平成30年度、運営費補助から事業費補助に切り替えた。 		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	大学（0校）：0円 短大（1校）：507,764円 高校（1校）：700,000円 幼稚園（5園）：2,896,216円 補助金計：4,103,980円	大学（0校）：0円 短大（1校）：535,000円 高校（1校）：700,000円 幼稚園（5園）：3,107,782円 補助金計：4,342,782円	大学（0校）：0円 短大（1校）：700,000円 高校（1校）：677,515円 幼稚園（5園）：3,129,564円 補助金計：4,507,079円
令和3年度の変更点・改善点	近年申請内容が補助対象事業に該当するかどうか疑義がある事例が散見されたため、申請に際して各法人に補助対象事業の再確認を行うよう指導し、特に疑義がある法人については個別に説明会を実施することで補助内容の適正化を図った。		
事業名②	私立高等学校授業料補助事業		□新規 □重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	公私立学校間における負担の格差是正を図り、教育の機会均等を確保し、また、私立学校教育の振興に寄与するため、私立高等学校の授業料を負担している保護者に対して授業料補助を行う。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	619人に対して5,037,600円を補助	498人に対して3,913,400円を補助	475人に対して3,720,900円を補助
令和3年度の変更点・改善点	学校による授業料負担額証明欄について、学校側の事務負担が軽減されるように記載内容の見直しを行った。		

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》 ○令和2年度に学校や保護者から指摘のあった事項について、令和3年度の申請時に反映させることで、より円滑に事務を進めることができた。
《課題および今後の方針》 ○令和4年度から補助金額が増額変更され、併せて申請書の様式も変更されることから、申請者にとって分かりやすい制度説明に努めていく。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
7	奨学金交付事業	庶務課
施策の目標 (基本方針)	勉学の意欲があり、修学のための経済的支援が必要と認められる本市中学校卒業生が、高等学校等在学中期間に返済の必要がない奨学金を支給する。	
《これまでの取組状況》		
○義務教育以降の修学については、私立高等学校授業料補助事業で一部授業料補助を行っている。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	稲沢市久納奨学基金奨学金		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	1 募集人数 20人以内(年度) 2 奨学金の額 1人月額10,000円 3 支給期間 正規の修業期間中とする。ただし、3年間を限度とする。 4 応募資格 次の項目すべてに該当すること。 (1) 市内に住所を有すること。 (2) 勉学意欲があり、かつ、品行方正であること。 (3) 経済的理由により修学が困難であること。 (4) 本市立中学校を卒業し、高等学校等就学支援金の支給対象となる高等学校等に入学する方で、出身中学校長の推薦があった方 ※成績は中学校3年間の平均が5段階評価で3.0以上、家庭の所得状況が募集要項に示す基準を満たすこと。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	平成30年度奨学生(平成29年度卒業生)10人:1,200,000円支給 令和元年度奨学生(平成30年度卒業生)20人:2,400,000円支給 計 3,600,000円支給	平成30年度奨学生(平成29年度卒業生)10人:1,200,000円支給 令和元年度奨学生(平成30年度卒業生)20人:2,370,000円支給 ※1名については出国による退学のため12月までの支給 令和2年度奨学生(令和元年度卒業生)20人:2,400,000円支給 計 5,970,000円支給	令和元年度奨学生(平成30年度卒業生)19人:2,280,000円支給 令和2年度奨学生(令和元年度卒業生)20人:2,400,000円支給 令和3年度奨学生(令和2年度卒業生)12人:1,440,000円支給 計 6,120,000円支給
令和3年度の変更点・改善点	前年度の申請件数が13件と少なかったため、令和3年度については2月中旬をめどに各中学校に申請状況を確認し、申請件数が少ないようであれば再度の勸奨を依頼する。		

■ 教育委員会による評価(自己評価)

《令和3年度の実績・評価》
○令和3年度新規申請者(令和2年度中学校卒業生)が13名と例年より少なかったことを受け、令和3年度については2月中旬から各中学校と連絡を取り、申請者の把握に努めた。その結果、令和4年度新規申請者(令和3年度中学校卒業生)は18名と、前年度から5名の増となった。
《課題および今後の方針》
○引き続き奨学金の周知や各中学校との連携に努める。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
8	就学の援助	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由によって就学が困難な家庭については、保護者負担の軽減を図るため、必要な援助に努める。	
《これまでの取組状況》 ○経済的理由によって就学が困難な家庭については、就学援助費事業で保護者負担の軽減を図ってきた。 ○特別支援教育就学奨励費事業によって、特別支援教育の推進、また、療養費等の支出がある障害のある子どもたちの保護者に対する援助を図ることができた。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	就学援助費事業	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
事業概要	経済的な理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者（主に母子家庭や低所得者の世帯を対象）に、国の基準に基づき、学用品費・給食費等を援助をすることで、義務教育の円滑な運営を図る。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	認定者数・・・895人 支給額・・・69,054,920円 (※所得基準による認定 23人)	認定者数・・・917人 支給額・・・56,417,218円 (※所得基準による認定 86人)	認定者数・・・909人 支給額・・・75,448,745円 (※所得基準による新規認定 65人)	
令和3年度の変更点・改善点	修学旅行費の補助額を増額した。			
事業名②	特別支援教育就学奨励費事業	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
事業概要	特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者が負担する費用の一部を、経済状況に応じて補助するもの。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	認定者数・・・165人 支給額・・・6,465,001円	認定者数・・・172人 支給額・・・5,430,978円	認定者数・・・173人 支給額・・・6,730,155円	
令和3年度の変更点・改善点				

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○令和4年度からオンライン学習通信費を援助の対象に加えるための要綱改正等を行った。
《課題および今後の方針》
○認定作業の複雑化への対応や支払作業の効率化を実現するため、システム導入の検討をする必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
9	外国人児童生徒（及びその保護者）の教育支援	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	外国人児童生徒（及びその保護者）の教育支援	
《これまでの取組状況》 ○ポルトガル語等語学相談員2人を対象校に派遣し、授業における基礎的な日本語指導、日本語適応支援教室における教師の語学指導の補助、児童生徒・保護者を対象に学校生活に関する相談活動等を行ってきた。 ○外国人児童生徒が増える中で、日本語教育推進委員会（事務局は高御堂小学校）に委託し、教職員が指導力向上のため、授業研究等を行ってきた。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	ポルトガル語等の語学指導助手派遣事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	日本語が理解できない外国人児童・生徒の在籍校に対して、ポルトガル語・タガログ語の語学指導助手（2人）を派遣する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	授業における基礎的な日本語指導、日本語適応支援教室における教師の語学指導の補助、児童生徒・保護者を対象に学校生活に関する相談活動等を行った。（相談者数134人）	授業における基礎的な日本語指導、日本語適応支援教室における教師の語学指導の補助、児童生徒・保護者を対象に学校生活に関する相談活動等を行った。（相談者数159人）	授業における基礎的な日本語指導、日本語適応支援教室における教師の語学指導の補助、児童生徒・保護者を対象に学校生活に関する相談活動等を行った。（相談者数171人）
令和3年度の変更点・改善点			
事業名②	外国人児童生徒に対する日本語教育推進事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	外国人児童生徒の教育に関する研修、外国人児童生徒の保護者を対象とした相談会を行う		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	日本語教育推進委員会（事務局は国分小学校）に委託し、教職員の指導力向上のため、授業研究等を行った。	日本語教育推進委員会（事務局は高御堂小学校）に委託し、教職員の指導力向上のため、授業研究等を行った。教育相談については、語学指導助手を交え、必要に応じて各学校で行った。	日本語教育推進委員会（事務局は高御堂小学校）に委託し、教職員の指導力向上のため、授業研究等を行った。教育相談については、語学指導助手を交え、必要に応じて各学校で行った。
令和3年度の変更点・改善点			

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》 ○「外国人児童生徒に対する日本語教育推進事業」では、年3回の研修会を行い、広く日本語教育への理解を深めるとともに、今後も増加することが予想される外国人児童生徒の受け入れのための体制作りを進めた。また、中学校へ進学した対象生徒を日本語適応教室担当教員が訪問し、中学への適応について確認した。
《課題および今後の方針》 ○ポルトガル語、タガログ語への支援が必要な児童生徒が外国人児童生徒の80%超おり、引き続き語学指導助手を配置することで、日本語指導の充実を図る。ポルトガル語の対象児童生徒については、100人を超えてきており、拡充が必要な状況である。また、中国語、スペイン語など他の言語を母語とする児童生徒も増加しており、多様な言語への対応が課題となっているため、現場の状況に合わせて新たな配置についても検討する。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
10	特別支援教育の推進	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	特別支援教育の推進、また、発達障害児童生徒への学習支援など、きめ細かい教育的な対応を行う	
《これまでの取組状況》		
<p>○通常学級に在籍している発達障害児の食事や教室移動の補助、安全確保、学習支援といった学校における日常生活上の支援等を行う支援員を配置してきた。</p> <p>○障害のある新就学児童を主な対象に、教育相談等を実施し、児童の適切な就学指導（特別支援学校または特別支援学級または通常学級）を行ってきた。特別支援教育推進委員会を組織し、調査研究を行い、指導方法とその教育効果の向上を図ってきた。</p>		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	特別支援教育支援員の配置			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	通常学級に在籍している発達障害児の食事や教室移動の補助、安全確保、学習支援といった学校における日常生活上の支援等を行う支援員を配置する。					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	支援員77人（全小中学校に配置）	支援員79人（全小中学校に配置）	支援員79人（全小中学校に配置）			
令和3年度の変更点・改善点						
事業名②	就学指導補助事業及び特別支援教育の推進			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	特別支援教育に関する事例研究や情報交換を行い、児童生徒の適切な就学指導を実施する。					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	障害のある新就学児童を主な対象に、教育相談（2回）や稲沢市教育支援委員会（1回）を開催し、児童の適切な就学指導（特別支援学校または特別支援学級または通常学級）を行った。特別支援教育推進委員会を開催し、特別支援教育や適正就学のあり方について検討を行った。	障害のある新就学児童を主な対象に、教育相談（2回）や稲沢市教育支援委員会（1回）を開催し、児童の適切な就学指導（特別支援学校または特別支援学級または通常学級）を行った。特別支援教育推進委員会を開催し、特別支援教育や適正就学のあり方について検討を行った。	障害のある新就学児童を主な対象に、教育相談（2回）や稲沢市教育支援委員会（1回）を開催し、児童の適切な就学指導（特別支援学校または特別支援学級または通常学級）を行った。特別支援教育推進委員会を開催し、特別支援教育や適正就学のあり方について検討を行った。			
令和3年度の変更点・改善点						

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
<p>○特別支援教育支援員の配置による効果により、発達障害の可能性のある児童生徒への手厚い教育的支援を行うことができた。今後も、通常の学級に在籍している特別な支援が必要な児童生徒の増加に伴って配置していくことが重要である。</p> <p>○市の教育支援委員会までの相談活動や準備が計画的に進められ、教員、保護者、医療機関ともに特別支援教育に対する理解が深まりつつあり、就学に関して十分に検討し、保護者との合意のもと判断されるようになってきている。</p>
《課題および今後の方針》
<p>○通常の学級に在籍する発達障害及びその可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合は、増加しており、学校現場からは更なる特別支援教育支援員の配置増が求められている。また医療的ケア児の対応のための支援員も拡充を検討する必要がある。教育支援委員会のための資料を作成するにあたって、WISC等の検査体制が不十分な状況である。検査キットの購入や人員の配置、研修機会の確保を検討したい。</p>

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
11	いじめ・不登校などへの対応	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	引きこもり・不登校児童生徒に対する支援活動を行い、いじめ・不登校の対策について研修を行う。	
《これまでの取組状況》		
○いじめ・不登校対策委員会を設置し、いじめ・不登校対策の研修活動や、市内の全家庭・地域に対する啓発活動等を行っている。 ○適応支援教室「明日花」やホームフレンド事業など、引きこもり・不登校児童生徒への実際的な支援も行っている。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	いじめ、不登校対策推進事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	いじめ、不登校対策の全体計画とその実施に関するより専門な提案と助言を求めため、いじめ・不登校対策委員会を設置している。その委員会で、いじめ、不登校への対策等の研修活動を行う。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	心の教室相談員を中学校2校に配置し相談体制を強化するとともに、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行うため、社会福祉士等の専門的な知識・技術を有するスクールソーシャルワーカー1名を継続配置した。また、いじめ・不登校対策委員会及び部会（いじめ部会・不登校部会）を定期的に開催した。	心の教室相談員を中学校2校に配置し相談体制を強化するとともに、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行うため、社会福祉士等の専門的な知識・技術を有するスクールソーシャルワーカーを1名増員し、2名配置した。また、いじめ・不登校対策委員会及び部会（いじめ部会・不登校部会）を定期的に開催した。	心の教室相談員を中学校2校に配置し相談体制を強化するとともに、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行うため、社会福祉士等の専門的な知識・技術を有するスクールソーシャルワーカーを引き続き2名配置した。また、いじめ・不登校対策委員会及び部会（いじめ部会・不登校部会）を定期的に開催した。
令和3年度の変更点・改善点	スクールソーシャルワーカーを引き続き2名配置した。（稲沢西中・千代田中） いじめ・不登校対策委員会において「いじめ防止ハンドブック」を見直し、令和4年度から各学校へ配付できるようにした。		
事業名②	適応支援教室（明日花）事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	稲沢市中学校セミナーハウス等を利用して、適応支援教室「明日花」を開設する。開設時間は、午前10時から午後3時まで児童・生徒の生活面・学習面を指導する。指導員及び指導補助員を雇用し、学校復帰や進路の実現に向けた支援を行う。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	適応支援教室「明日花」「明日花（東分室）」にて、指導員2人・指導補助員2人を雇用し、適応指導、学習指導、体験活動等を行った。（利用者数46人）	適応支援教室「明日花」「明日花（東分室）」にて、指導員2人・指導補助員2人を雇用し、適応指導、学習指導、体験活動等を行った。（利用者数49人）	適応支援教室「明日花」「明日花（東分室）」にて、指導員2人・指導補助員2人を雇用し、適応指導、学習指導、体験活動等を行った。（利用者数35人）
令和3年度の変更点・改善点			

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○いじめ・不登校対策委員会において、夏季・秋季の2回、研修会を開催し、各学校におけるいじめ・不登校対策の推進に有意義であった。適応支援教室「明日花」「明日花（東分室）」における適応支援やホームフレンド事業などの相談活動、さらにはスクールソーシャルワーカーの介入により、不登校児童生徒、そして不登校傾向のある児童生徒に対して支援することができた。
《課題および今後の方針》
○市内の不登校児童生徒数は増加している。不登校の要因は多様化しており、個に応じた支援や教師側の専門的な知識・技能の習得がより一層求められている。今後もそれぞれの相談活動等の充実はもちろんのこと、適応支援教室、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、ホームフレンド事業や心の教室相談員と学校がさらに連携し、個々の児童生徒が抱える問題の把握や支援に努めていく必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
12	国際理解教育の推進	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	児童生徒に生きた英語を身につけさせ、また、外国の文化・生活習慣を理解させて国際理解を深めることで、国際感覚を持つ心豊かな生徒の育成を図る。	
《これまでの取組状況》 ○毎年8月の10日間、将来の郷土を担う中学生を海外（カナダ）に派遣しホームステイ等をする事業を実施。児童生徒らの国際理解を深め、国際感覚を持つ心豊かな生徒の育成を図ってきた。 ○生きた英語や海外の文化を親しみやすく生徒に教えることを目的に、外国人語学指導助手（ALT）を各小中学校へ派遣する事業を実施してきた。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	中学生海外派遣事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	生徒が海外の一般家庭にホームステイし、生活をともにしながら外国の文化・習慣に触れ、国際人としての自覚を高める機会を持たせる。対象は市内中学校に在学する3年生。派遣人数は各校4人。派遣先はカナダのバンクーバー。派遣期間は8月の10日間。参加者への補助額は1人につき経費の2分の1（限度額は20万円）。実行委員会に補助金を支出し、運営を委託。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	4月に各校で事業説明会を行い、参加希望申込。4月に1次審査（作文・リスニング・面接等）・2次審査（公開抽選）で参加者決定。参加者説明会を4回実施。派遣期間8月14日から23日（10日間）	新型コロナウイルス感染症拡大を受け事業中止	新型コロナウイルス感染症拡大を受け事業中止
令和3年度の変更点・改善点			
事業名②	ALT（語学指導助手）配置委託事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	外国人の語学講師を小中学校に配置し、生きた英語や海外の文化を親しみやすく児童生徒に教える。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	民間業者と委託契約を締結し、7人のALTを主に小学校に配置した。	民間業者と委託契約を締結し、7人のALTを主に小学校に配置した。	民間業者と委託契約を締結し、7人のALTを主に小学校に配置した。
令和3年度の変更点・改善点			
事業名③	小学校における外国語活動等国際理解活動推進事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	小学生から異文化に関心をもち、積極的に外国人とコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を図るため、ALTや地域の人材を効果的に活用した小学生の外国語活動のあり方を研究する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	外国語活動に係るカリキュラム内容の検討、指導案の作成、授業研究等を行った。事務局は大里東小学校。	教科化された外国語や外国語活動に係るカリキュラム内容の検討、指導案の作成、授業研究等を行った。事務局は大里東小学校。	教科化された外国語や外国語活動に係るカリキュラム内容の検討、指導案の作成、授業研究等を行った。事務局は丸甲小学校。
令和3年度の変更点・改善点			

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》

○小学校への外国語指導助手（ALT）の配置により、生きた英語や外国の文化をより親しみやすく児童に指導することができた。

《課題および今後の方針》

○令和2年度からの小学校5・6年生における小学校英語の教科化や平成30年度からの小学校3・4年生における外国語活動の実施に伴い、小学校でのALTの活用や英語専科の教員の配置等さらに研究を深めていく必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
13	教育の情報化推進	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	各学校・各教室でコンピュータやインターネットが活用できる環境を整備、タブレット型PCを児童生徒1人1台配備して次代を担う児童生徒のコンピュータ能力向上を目指す。また、教職員にも1人1台コンピュータを配置し、事務の効率化を目指す。	
《これまでの取組状況》 ○稲沢市では、職員室における教職員用PCを始め、コンピュータ教室、普通教室等にPCおよび周辺機器を整備し、5～6年ごとに更新している。 ○令和元年12月13日に閣議決定された「GIGAスクール構想」は、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するものであり、稲沢市では国の方針に従い、令和2年度末までに市内小中学校全児童生徒等に1人1台のタブレットPCとして計11,358台を整備した。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	学校コンピュータ整備事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	これまで小中学校に整備してきた教育用コンピュータ及び校務用コンピュータ等を更新していく。また、「GIGAスクール構想」による1人1台タブレットPCや関連機器を導入し、個別最適な学びを実現するための環境を整備する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	児童生徒及び教職員のパソコンの入れ替えを行った。(小学校905台、中学校119台)令和元年12月1日から令和6年11月30日まで入れ替え分の借上げを実施。	児童生徒・教職員用PCの入れ替え対象機器なし。 GIGAスクール構想によりタブレット型PCを児童生徒1人1台配備(小学校7,625台 中学校3,733台)	タブレットPCを学校の臨時休業等の緊急時や今後日常的に家庭へ持ち帰り学習に活用していくため、以下の準備を進めた。 ・Wi-Fi環境が整っていない家庭へ貸し出すためのモバイルWi-Fiルーター整備 ・タブレットPCを家庭へ持ち帰る際に有害なWEBサイト等を閲覧できなくするためフィルタリングソフトを導入 ・オンライン授業を実施するため必要となるWEBカメラやマイク等の整備
令和3年度の変更点・改善点	ICT支援員を7名配置した。		
事業名②	情報教育推進事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	情報教育推進委員会に委託し、タブレットPCをはじめとするICT機器の利活用やネットワーク管理運用規定の整備・運用など、教職員のICT機器に関する力量向上を目指した研修を行う。また、GIGAスクール構想推進委員会と連携し、タブレットPCの活用方法等を検討する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	情報教育推進委員会を年3回開催し、プログラミングソフトやデジタル教材の効果的・有効的な活用など、教職員のコンピュータに関する力量向上を目指した活動を実施。	情報教育推進委員会を年4回開催し、プログラミングソフトやデジタル教材の効果的・有効的な活用など、教職員のコンピュータに関する力量向上を目指した活動を実施。 GIGAスクール構想推進委員会を年3回開催し、令和3年度から利用されるタブレットPCの活用方法等を検討した。	情報教育推進委員会を年4回開催し、GIGAスクール構想の実現に向け、4月から導入されたタブレットPCの効果的・有効的な活用など、教職員の力量向上を目指した活動を実施。また、GIGAスクール構想推進委員会と連携し、タブレットPCの家庭への持ち帰りに向けて、約束事や情報モラル指導等を検討した。
令和3年度の変更点・改善点	情報教育推進委員会とICT支援員がタイアップした「タブレットPC研修会(夏季・冬季)」を開催した。		

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○オンライン授業を配信可能なハードウェア環境を整備することができた。
《課題および今後の方針》
○令和4年度からモバイルルーターの貸し出しを実施するため積極的にPRしていく必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
14	「生きる力」を育むための各種教育活動への支援	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	学習指導要領による「生きる力」を育むため、学校の特色を生かした教育活動に取り組んでいるが、その支援を行う	
《これまでの取組状況》 ○現学習指導要領による総合的な学習の実践、福祉実践教室や生徒指導対策、少人数指導の実践など、小中学校ごとの特色を生かしたきめ細かな教育が求められるため、委託金・補助金あるいは会計年度任用職員雇用等で各校の活動を支援してきた。 ○教材・理科備品及び図書購入など教育に関する必要な備品については各学校の要望を聞きながら整備を進めてきた。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	特色ある教育活動推進事業			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	特色ある学校づくりの計画・推進を、各学校に委託。具体的には、児童生徒の「生きる力」を育むため「総合的な学習の時間」（国際理解教育・環境教育・情報教育・地域理解教育等様々なテーマのもとに）の充実を推進する。また、学校運営協議会などの地域の声を反映した様々な学校の活動を推進する。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	各学校からの事業計画書等を取りまとめ、児童数・学級数・事業内容に応じ委託金を配分し、全小中学校で事業を実施。 委託料 15,885,000円	各学校からの事業計画書等を取りまとめ、児童数・学級数・事業内容に応じ委託金を配分し、全小中学校で事業を実施。 委託料 15,810,000円	各学校からの事業計画書等を取りまとめ、児童数・学級数・事業内容に応じ委託金を配分し、全小中学校で事業を実施。 委託料 15,085,000円			
令和3年度の変更点・改善点	市内すべての小中学校が学校評議員制度から学校運営協議会へ移行した。					
事業名②	ふるさと新発見学習推進事業			<input type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	市の特性について生徒自らが学び考える身近な地域の調査学習を通して、稲沢市への愛着と誇りを培い、これからの稲沢を担う人づくりにつなげることを目的として事業を推進する。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	中学2年生の社会科「身近な地域の調査」学習において、「自然・環境」「文化・伝統」「生活・都市」といった稲沢市に密着したテーマを生徒自身が選択し、自ら学び考える学習を支援するとともに、各中学校の優秀生徒の学習成果の発表会を開催した。 委託料 400,000円	中学2年生の社会科「身近な地域の調査」学習において、「自然・環境」「文化・伝統」「生活・都市」といった稲沢市に密着したテーマを生徒自身が選択し、自ら学び考える学習を支援するとともに、各中学校の優秀生徒の学習成果の発表会を開催した。 委託料 400,000円	中学2年生の社会科「身近な地域の調査」学習において、「自然・環境」「文化・伝統」「生活・都市」といった稲沢市に密着したテーマを生徒自身が選択し、自ら学び考える学習を支援するとともに、各中学校の優秀生徒の学習成果の発表会を開催した。 委託料 400,000円			
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症拡大を受け、表彰式および発表会を縮小して開催した。					

事業名③	少人数指導等推進事業			□新規	☑重点	☑継続
事業概要	1クラスの人数が多い（定員の40人に近い）小学校へ配置。一つの学級を習熟度別等で複数に分けて少人数指導を行う。算数を中心にした基礎・基本の充実と確かな学力の定着、個々に応じた指導の充実を図る。また、全小学校で低学年児童の下校時の安全確保と学習活動の充実を図り、常に一斉下校できるよう、セーフティ・プラスワン事業を展開する。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	少人数指導等非常勤講師57人（少人数指導等非常勤講師11人、セーフティ・プラスワン事業非常勤講師26人、小学校英語非常勤講師20人）を採用し、算数を中心に少人数指導を行い、確かな学力の定着、個々に応じた指導の充実を図った。また、下校時の安全対策に特化した一斉下校を全小学校で実施するとともに、令和2年度からの教科化を見据え、小学校5・6年生を対象に英語免許を保有する教員等による授業を実施した。	少人数指導等非常勤講師52人（少人数指導等非常勤講師8人、セーフティ・プラスワン事業非常勤講師25人、小学校英語非常勤講師19人）を採用し、算数を中心に少人数指導を行い、確かな学力の定着、個々に応じた指導の充実を図った。また、下校時の安全対策に特化した一斉下校を全小学校で実施するとともに、小学校5・6年生を対象に英語免許を保有する教員等による授業を実施した。	少人数指導等非常勤講師57人（少人数指導等非常勤講師11人、セーフティ・プラスワン事業非常勤講師25人、小学校英語非常勤講師21人）を採用し、算数を中心に少人数指導を行い、確かな学力の定着、個々に応じた指導の充実を図った。また、下校時の安全対策に特化した一斉下校を全小学校で実施するとともに、小学校5・6年生を対象に英語免許を保有する教員等による授業を実施した。			
令和3年度の変更点・改善点						
事業名④	教材備品購入事業			□新規	□重点	☑継続
事業概要	小中学校の授業で利用する掛図や映像教材等の教材や、家電や楽器・スポーツ備品等の教材備品を購入する。各学校から提出された要望書を基にヒアリングを行い、全校分を教育委員会が一括購入する。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	決算額 小学校…6,353,010円 中学校…4,992,915円 不足している教材備品の購入及び老朽化した教材備品の買替えを実施。	決算額 小学校…6,499,740円 中学校…5,399,928円 不足している教材備品の購入及び老朽化した教材備品の買替えを実施。	決算額 小学校…4,811,215円 中学校…3,823,905円 不足している教材備品の購入及び老朽化した教材備品の買替えを実施。			
令和3年度の変更点・改善点						

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○少人数指導等推進事業については、市単独非常勤講師を配置することにより、配置校の学習指導の充実を図ることができた。また、セーフティ・プラスワン事業においては、実施校での学習活動（体験的な活動、情操的な活動、学習補充等）の充実をに努めるとともに、低学年児童の下校時の安全確保を図ることができた。
《課題および今後の方針》
○今後小学校にて専科教員を配置する流れが示される中、少人数指導の人員を再検討する必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
15	教職員研修の推進	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	教職員は、学校教育の目標と学習指導要領の趣旨を理解し、その使命と責任を自覚することが重要であるので、常に研修に努め教育の理想を求める。	
《これまでの取組状況》 ○教職員の各種組織あるいは各学校に補助金を交付し、積極的な研修の計画・実行を促すことにより、現職教育の充実を図り、教職員の資質向上を図ってきた。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	現職教育研修費補助事業	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	
事業概要	教職員の各種組織において積極的に研修を計画し、実行することにより現職教育の充実を図り、教職員の資質向上を図る。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	各種団体（校長研修会、教頭研修会、教務主任研修会、校務主任研修会、養護教諭研修会、保健主事研修会、栄養教諭研修会、県事務研修会、生徒指導担当者研修会、初任者研修）の代表校及び各学校へ補助金を交付することにより、各種研修を計画的に実施。 委託料 1,557,276円 補助金 1,422,000円	各種団体（校長研修会、教頭研修会、教務主任研修会、校務主任研修会、養護教諭研修会、保健主事研修会、栄養教諭研修会、県事務研修会、生徒指導担当者研修会、初任者研修）の代表校及び各学校へ補助金を交付することにより、各種研修を計画的に実施。 委託料 1,190,361円 補助金 1,438,000円	各種団体（校長研修会、教頭研修会、教務主任研修会、校務主任研修会、養護教諭研修会、保健主事研修会、栄養教諭研修会、県事務研修会、生徒指導担当者研修会、初任者研修）の代表校及び各学校へ補助金を交付することにより、各種研修を計画的に実施。 委託料 1,230,423円 補助金 1,436,000円
令和3年度の変更点・改善点	コロナの影響で中止にした研修会もあった。		
事業名②	教科等研究事業	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	
事業概要	小中学校の各教科等(各教科、道徳、特別活動、特別支援教育、生徒指導及び進路指導)における実践的研究を行い、研究の成果を市内小・中学校及び各教育団体等に広く提供し、当市の教育の向上を図る。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	稲沢市教育研究会に委託金を交付。各教科・領域ごとに研究部をおき、教科課程・学習活動等に関する調査・研究等を計画、教職員相互の研究にも努める。 委託料 550,000円	稲沢市教育研究会に委託金を交付。各教科・領域ごとに研究部をおき、教科課程・学習活動等に関する調査・研究等を計画、教職員相互の研究にも努める。 委託料 140,000円	稲沢市教育研究会に委託金を交付。各教科・領域ごとに研究部をおき、教科課程・学習活動等に関する調査・研究等を計画、教職員相互の研究にも努める。 委託料 550,000円
令和3年度の変更点・改善点	研究発表会をオンラインで行った。		
事業名③	教育課程編成事業	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	
事業概要	学習指導要領に基づき稲沢市の小中学校の教育課程を編成する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	稲沢市小中学校教育課程編成委員会に委託金を交付。小中学校の教育課程編成・指導事例作成事業及びそのための調査及び研究に関する活動に努める。 委託料 250,000円	稲沢市小中学校教育課程編成委員会に委託金を交付。小中学校の教育課程編成・指導事例作成事業及びそのための調査及び研究に関する活動に努める。 委託料 250,000円	稲沢市小中学校教育課程編成委員会に委託金を交付。小中学校の教育課程編成・指導事例作成事業及びそのための調査及び研究に関する活動に努める。 委託料 150,000円
令和3年度の変更点・改善点			

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》

○教職員の各種組織に委託金・補助金を交付し、研修などで現職教育の充実を図るとともに、教職員の資質向上を図ることができた。しかし、「年代別教職員研修」は、コロナの影響により研修会が中止になり、参加できなかった。

《課題および今後の方針》

○タブレットPCの導入により教員のICT活用指導力の向上など、教職員に求められる資質・専門性も高度になっているため、研修の質を高めていく必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
16	学校安全・学校保健の推進	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	児童生徒ならびに教職員の健康の保持増進を図り、学校における保健管理及び安全管理を推進する。	
《これまでの取組状況》 ○学校保健法等に基づき教職員・児童生徒の健康診断等を行い、児童生徒ならびに教職員の健康の保持増進を図ってきた。 ○独立行政法人スポーツ振興センターへの加入や緊急時のタクシー利用の補助で、校内で怪我等をした児童生徒及びその保護者への支援を行ってきた。また、学校環境衛生検査を行い、学校環境の実態を把握してきた。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	教職員、児童生徒の健康診断事業			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	学校保健安全法に基づき、教職員及び児童生徒の健康診断を行う。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	教職員744人受診 検査項目、胸部X線、尿検査、血圧、血液（肝機能）、心電図、医師の診察、腹囲、大腸がん検査、胃部X線、（直接撮影）	教職員752人受診 検査項目、胸部X線、尿検査、血圧、血液（肝機能）、心電図、医師の診察、腹囲、大腸がん検査、胃部X線、（直接撮影）	教職員760人受診 検査項目、胸部X線、尿検査、血圧、血液（肝機能）、心電図、医師の診察、腹囲、大腸がん検査、胃部X線、（直接撮影）			
令和3年度の変更点・改善点						
事業名②	学校環境衛生管理事業			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	毎年時期を定めて、客観的、科学的に学校環境の実態を把握し、その結果、基準に示された環境を維持し、また、必要があれば適切な改善を行う等の事後措置を講じる定期環境衛生検査を行う。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	「学校環境衛生の基準」に基づき、各学校の学校薬剤師が定期的に検査を実施（検査項目は照度及び照明環境、騒音環境、給食食器の残留澱粉・脂肪・大腸菌、調理室の衛生管理状況、教室等の空気、水質基準、ダニ検査）。その他、プールの水質検査（トリハロメタン）も行った。	「学校環境衛生の基準」に基づき、各学校の学校薬剤師が定期的に検査を実施（検査項目は照度及び照明環境、騒音環境、給食食器の残留澱粉・脂肪・大腸菌、調理室の衛生管理状況、教室等の空気、水質基準、ダニ検査）。	「学校環境衛生の基準」に基づき、各学校の学校薬剤師が定期的に検査を実施（検査項目は照度及び照明環境、騒音環境、給食食器の残留澱粉・脂肪・大腸菌、調理室の衛生管理状況、教室等の空気、水質基準、ダニ検査）。その他、プールの水質検査（トリハロメタン）も行った。			
令和3年度の変更点・改善点	水泳授業を実施する学校のみプール水質検査を行うこととした。					
事業名③	独立行政法人日本スポーツ振興センターへの加入			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	学校の管理下における児童生徒等の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に対して、災害共済給付（医療費、障害見舞金又は死亡見舞金の支給）を行う独立行政法人日本スポーツ振興センターへ加入契約を行う。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	5月に加入手続きを行う（掛金10,130,515円）。医療費・障害見舞金の支給額2,367,615円	5月に加入手続きを行う（掛金10,081,610円）。医療費・障害見舞金の支給額1,531,928円	5月に加入手続きを行う（掛金10,026,280円）。医療費・障害見舞金の支給額1,852,823円			
令和3年度の変更点・改善点						

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○コロナ禍にあり健康診断においても感染拡大防止策を講じながら実施できた。
《課題および今後の方針》
○引き続き新型コロナウイルス感染症の動向に注意しながら対応していく必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
17	教員の多忙化解消の推進	学校教育課
施策の目標 (基本方針)	教員が一人ひとりの子どもに丁寧に関わりながら、質の高い授業や個に応じた指導を実現していくため、教員の多忙化解消を推進する。	
《これまでの取組状況》		
○夏季休業中における学校閉校日の設定(平成22年度試行、平成23年度全校実施)		
○学校事務の共同実施による県事務職員の学校事務の平準化・標準化、教員の事務負担の軽減(平成27年度～)		
○校務支援システム導入(平成28年10月～)による業務の効率化		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	夏季休業中における学校閉校日の設定		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	学校の長期休業期間中における教職員を対象とした会議、行事等の実施時期を調整するとともに、その精選を促すことにより、家族休暇(夏季)等の使用促進を図る。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	8月10日(土)～8月16日(金)実施	8月10日(月)～8月16日(日)実施	8月10日(火)～8月16日(月)実施
令和3年度の変更点・改善点			
事業名②	学校事務の共同実施		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	地域の実情に応じた小中学校で構成する共同実施ブロックのリーダーが、ブロック内の事務を総括するとともに、効率的かつ適正に処理するよう事務職員の分掌すべき事務を割り振り、事務の繁閑を平準化し、効率的な業務運営を図る。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	5つのブロックで構成 庶務、人事、経理、管財を所掌	5つのブロックで構成 庶務、人事、経理、管財を所掌	5つのブロックで構成 庶務、人事、経理、管財を所掌
令和3年度の変更点・改善点			
事業名③	校務支援システムの活用		<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	校務情報を一元的に管理・運用することにより、教職員の業務を効率化し、教職員が児童生徒と向き合う時間を拡充することで教育の質の向上を図る。 平成28年度 校務支援システム新規導入 令和元年度 通知表作成支援システムを追加 令和2年度 出退勤管理システムを追加 令和3年度 すべての機能を維持しつつリプレイス実施		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	帳票項目:出席簿、指導要録、調査書、通知表 借上料 14,890,776円	帳票項目:出席簿、指導要録、調査書、通知表、出勤簿 借上料 17,714,556円	帳票項目:出席簿、指導要録、調査書、通知表、出勤簿 借上料 18,291,012円
令和3年度の変更点・改善点			

事業名④	スクール・サポート・スタッフの配置	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input type="checkbox"/> 継続
事業概要	小中学校において教員が一層児童生徒への指導や教材研究等に専念できる体制を確保することを目的に、スクール・サポート・スタッフを配置し教員の業務支援を図る。	
年 度	令和3年度	
実施状況	大規模校8校に各1名配置 (稲沢東小学校、稲沢西小学校、大里東小学校、下津小学校、小正小学校、治郎丸中学校、稲沢西中学校、祖父江中学校)	
令和3年度の変更点・改善点	本年度は新規事業として大規模校8校に配置したが、教員の多忙化解消に有効であるため、今後の増員が望まれる。	

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○スクール・サポート・スタッフを配置したことにより、「児童生徒と関わる時間や教材研究に専念できる時間が増え、大変助かっている。」との声が配置校から届いており、効果を実感している。
《課題および今後の方針》
○校務支援システムに関しては、学校現場から要望がある機能の追加について検討し、導入していきたい。また、スクール・サポート・スタッフの効果的な活用について、配置校間で情報交換していく。配置校を計画的に増やし、全校配置を目指す。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
18	生涯学習の推進	生涯学習課
施策の目標 (基本方針)	平成30年度に策定した生涯学習推進計画を推進し、生涯を通じて学習できるまちを目指す。	
《これまでの取組状況》		
<p>○平成29年12月に次期計画策定に向けたアンケート調査を市民2,500人を対象に実施し、集計結果の分析を行った。</p> <p>○平成30年度は次期生涯学習推進計画策定に向けて、検討委員会を含め6回会議を開催し、平成31年3月に「2019稲沢市生涯学習推進計画」を策定した。</p>		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	生涯学習推進計画の推進		<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	生涯学習推進計画の進行状況を把握し、生涯学習の推進を図る。				
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
実施状況	<p>平成31年3月に策定した「2019稲沢市生涯学習推進計画」推進のための取組み等について協議 生涯学習推進会議 第1回 6月4日 第2回 2月17日 検討委員会 第1回 7月9日 第2回 8月27日 第3回 10月15日 第4回 1月28日</p>	<p>平成31年3月に策定した「2019稲沢市生涯学習推進計画」推進のための取組み等について協議 生涯学習推進会議 第1回 6月30日 第2回 2月26日 検討委員会 第1回 9月4日 第2回 12月21日</p>	<p>平成31年3月に策定した「2019稲沢市生涯学習推進計画」推進のための取組み等について協議 生涯学習推進会議 第1回 7月2日 第2回 3月1日</p>		
令和3年度の変更点・改善点	昨年度に引き続き、各委員が抽出した関係各課の個別事業について進捗状況調査票に基づき評価を行い、目標達成へ向けた具体的な方策を協議した。				

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○昨年度に引き続き関係各課の個別事業について進捗状況調査票に基づき評価を行ったが、今後の事業展開の参考として各委員から出された意見・要望等を伝達したものの、コロナ禍で思うように事業ができず事業内容の向上に繋がらなかった。
《課題および今後の方針》
○「2019稲沢市生涯学習推進計画」の中間見直しに向け、評価方法等について再度検討を行っていく必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
19	文化・芸術の振興	生涯学習課
施策の目標 (基本方針)	文化・芸術活動が盛んな地域を目指す。	
《これまでの取組状況》		
○平成20年度に文化協会、音楽協会及び美術協会を統合し、文化団体連合会を設立 ○市民会館自主事業を開催するため、市民会館文化事業補助金の交付 ○芸術文化の普及を図るため、文化活動団体の活動発表等に対する文化振興奨励補助金の交付 ○稲沢市文化振興指針を策定		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	市民会館文化事業補助金の交付			<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	文化発信拠点施設である市民会館において、「地域づくり事業基金」を活用し、市民会館文化事業に対して補助を行い、市民の文化・芸術の振興を図る。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	補助金額：20,000千円（内3,720,730円返還） 事業数24、入場者数18,531人 事業内容：合唱祭、音楽コンクール、ジョイントフェスティバル、稲沢市民寄席、コンサート、セントラル交響楽団公開リハーサル、アウトリーチ演奏会等 新規事業：エレクトーンフェスティバル、鉄道物語等	補助金額：20,000千円（内5,740,751円返還） 事業数16、入場者数3,995人 事業内容：音楽家の集い、ファミリーコンサート、稲沢市民寄席、郷土の音楽家による演奏会、セントラル交響楽団公開リハーサル等 新規事業：耀け!!未来の音楽家、日本の伝統芸能を繋ぐ、八代亜紀50周年コンサート	補助金額：20,000千円（内10,505,647円返還） 事業数18、入場者数9,986人 事業内容：響け!!未来の音楽家、セントラル交響楽団共催事業、音楽家の集い、合唱コンクール、全国学校音楽コンクール等 新規事業：稲沢市民寄席「柳家さん喬・柳家喬太郎 親子会」、舞台 デュラララ!!「円首片足の章」	
令和3年度の変更点・改善点	コロナ禍の状況下で「今できること」を基本に感染防止対策の下、「発信、連携、参加、育成」をキーワードとして各事業に取り組んだ。			
事業名②	文化振興奨励補助金の交付			<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	市民の文化振興を図るため、「稲沢市文化振興基金」を活用し、市民の自主的・自発的な各種活動に対して予算の範囲内で助成を行う。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	補助件数9件 補助金額518千円 事業別内訳：公演・展示等の芸術文化事業8件、講師招請事業1件	補助件数4件 補助金額246千円 事業別内訳：公演・展示等の芸術文化事業3件、講師招請事業1件	補助件数9件 補助金額592千円 事業別内訳：公演・展示等の芸術文化事業7件、講師招請事業1件、出版事業1件	
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症まん延の影響により事業を中止又は内容変更した結果、補助対象経費の額が下限額を下回った場合は、補助対象経費の2分の1以内において補助することができるよう補助金交付要綱を改正した。			

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○市民会館文化事業補助では、21事業のうち3事業について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。 ○文化振興奨励補助金事業では、要綱改正により昨年度に比べ中止事業を含め5件補助件数が増加した。
《課題および今後の方針》
○市民会館文化事業補助については、事業規模の拡大だけでなく、企画内容が稲沢市文化振興指針の趣旨に沿った内容であり、かつ採算が取れるよう見直しを進めていく必要がある。 ○文化振興奨励補助金事業については、コロナ禍で衰退した文化・芸術活動を盛り上げるため、より事業のPRに努め必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
20	文化財保護	生涯学習課
施策の目標 (基本方針)	市内に所在する多数の貴重な文化財を保存・保護しながら、その活用を図り、市民の文化財愛護意識の高揚を図るための啓発活動や埋蔵文化財の発掘調査・保護、伝統芸能の保存・継承等に関する事業を行う。 文化財に関する講座や講演会を開催するとともに、ボランティア組織の充実に努める。	
《これまでの取組状況》 ○埋蔵文化財発掘調査の実施 尾張国分寺跡は昭和36年から令和2年度まで22回の発掘調査を実施。 ○伝統芸能保存・継承に関する事業の実施 尾張の虫送り行事保存管理事業・木遣音頭保存管理事業などの実施。 ○文化財展行事の実施 稲沢の文化財展や文化財公開デーの実施。 ○文化財関連事業の実施 古文書講座・歴史講座・講演会やなどの実施。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	史跡尾張国分寺跡保存整備事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	尾張国分寺跡については、過去の発掘調査により概ね位置や規模を確定した金堂跡・塔跡・講堂跡など、伽藍の中心部分について、平成24年1月24日に先行して国の史跡指定をうけた。平成23年度から平成27年度にかけて寺域確認の発掘調査を実施し、その成果を基に寺域全体について、平成30年10月15日に追加指定をうけた。今後は保存整備について検討する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	令和元年5月25日に地元住民に対して追加指定の報告と今後の整備についての説明会を開催した。 また第21次発掘調査として、昨年度実施した地下レーダー探査の結果ををもち、未確認主要伽藍の位置の絞り込みを行うため講堂付近及び中門付近の発掘調査を行った。	未指定地の解消を図るとともに、法定相続人不存在の土地の対応方法を検討した。 また第22次発掘調査として、平成30年度実施した地下レーダー探査の結果ををもち、未確認主要伽藍の位置の絞り込みを行うため僧房付近の発掘調査を行った。	未指定地の解消を図るとともに、地権者に対し史跡整備の進捗状況についての説明会を開催した。 また第20次から22次発掘調査の成果をまとめた調査報告書を令和4年度に発行するため、発掘した遺物ほかの整理及び原稿の作成を行った。
令和3年度の変更点・改善点	地権者に対して史跡整備の進捗状況について説明会を開催し、現状の状況を周知した。 第20次から22次発掘調査の成果をまとめた調査報告書を発行する準備を行った。		
事業名②	伝統芸能保存・継承に関する事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	県・市指定の無形民俗文化財に対し、行事の実施、後継者の育成のため支援を行う。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	祖父江虫送り牧川実行委員会により、愛知県指定の無形民俗文化財尾張の虫送り行事が7月6日に行われた。日下部太鼓・木遣音頭・山崎地蔵寺太鼓はそれぞれの行事に参加するとともに、保存会により後継者の育成などの活動が行われている。	愛知県指定の無形民俗文化財尾張の虫送り行事は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。日下部太鼓・木遣音頭・山崎地蔵寺太鼓は感染防止対策をとり、保存会により後継者の育成などの活動が行われた。	愛知県指定の無形民俗文化財「国府宮の雛追祭」は規模を縮小し開催し、「尾張の虫送り行事」は中止となった。日下部太鼓、木遣音頭、山崎地蔵寺太鼓は、感染防止対策をとりながら保存会により後継者の育成などの活動が行われた。
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を中止又は縮小して行った。		

事業名③	文化財展事業			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	「稲沢の文化財展」、「文化財公開デー」などを開催し、文化財の公開をする。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	10月16日～20日の会期中、「令和元年度中高記念館公開&稲沢の文化財展」を中高記念館で開催し、223人の入場者があった。1階では平成30年度に尾張国分寺跡で実施した地下レーダー探査及び第20次発掘調査の成果を、2階では昔の学校関係の資料・授業で使われていた物を展示した。	10月15日～18日の会期中、「令和2年度中高記念館公開&稲沢の文化財展」を中高記念館で開催し、74人の入場者があった。1階では令和元年度に尾張国分寺跡で実施した第21次発掘調査の成果を、2階では昔の学校関係の資料・授業で使われていた物と、寄贈を受けた資料の展示を行った。	10月14日～17日の会期中で予定した「中高記念館公開&稲沢の文化財展」及び「文化財公開デー」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止したが、祖父江生涯学習センターの開館を記念して、展示コーナーで10月に亡くなった漫画家さいとうたかお氏等の資料の特別展示を行った。			
令和3年度の変更点・改善点	稲沢の文化財展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。また4月に開館した祖父江生涯学習センターの展示コーナーを利用し、特別展示を行った。					
事業名④	文化財講座などの開催			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	文化財関連講座、文化財講演会などを開催し、市民の文化財への知識と理解を深める。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	市内2か所において古文書・歴史の2講座を実施。4月14日に文化財公開デーを北市場本町の亀翁寺で開催し、国指定文化財木造虚空蔵菩薩坐像を公開。また、文化財講演会を11月2日に開催した。なお中高記念館の一般公開は稲沢の文化財展と同時に開催した。	市内2か所において古文書・歴史の2講座を実施。文化財公開デーは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。また、文化財講演会を12月6日に開催した。なお中高記念館の一般公開は稲沢の文化財展と同時に開催した。	市内2か所において古文書・歴史の2講座を実施した。また、文化財講演会を11月21日に開催し、65人の参加者があった。文化財愛護少年団は50人の応募があり、勾玉作りなど8回の活動をした。			
令和3年度の変更点・改善点	歴史講座は、4月に開館した祖父江生涯学習センターで行った。各事業において新型コロナウイルス感染症防止のため、中止または感染防止対策をとりながら行った。					

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
<p>○史跡尾張国分寺跡保存整備事業は、未指定地の解消を図るとともに、地権者に対し史跡整備の進捗状況についての説明会を開催し現在の状況を周知した。また第20次から22次発掘調査の成果をまとめた調査報告書を令和4年度に発行するため、発掘した遺物ほかの整理及び原稿の作成を行った。</p> <p>○「国府宮の難追祭」は規模を縮小し開催し、「虫送り行事」は中止となった。「木遣音頭」、「日下部太鼓」、「山崎地蔵寺太鼓」の保存会は、感染症対策をとりながら後継者育成などの活動にも取り組んだ。</p> <p>○祖父江生涯学習センター「ソブエル」の開館を記念して特別展『昭和の貸本文化と「劇画工房」』～さいとう・たかと6人の劇画家たち～を11月5日から12月19日の会期中で開催し、1,474人の観覧者があり、好評だった。また、稲沢の文化財展及び文化財公開デーは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。</p> <p>○文化財講演会は入場制限をしながら11月21日に「橋本一巴の居城、片原一色城を発掘する」をテーマに開催した。また、文化財愛護少年団の活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見ながら開催した。</p>
《課題および今後の方針》
<p>○史跡尾張国分寺跡については、未指定地の解消を図るとともに、先に策定した『尾張国分寺跡史跡保存整備基本構想』（平成26年3月）『史跡尾張国分寺跡保存管理計画書』（平成28年3月）を基に、史跡の保存と整備を行う。</p> <p>○伝統芸能等の継承については、学校との連携を図るとともに、保存会の活動を通して魅力を発信することにより、市民の関心を高め、後継者の育成に努める。</p> <p>○文化財展事業については、文化財の展示場所を確保するとともに、文化財の有効活用を図る。</p> <p>○講座の開催にあたり、新規の受講者を開拓できるよう、開催方法等を検討する必要がある。</p>

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
21	成人・家庭教育、青少年健全育成の推進	生涯学習課
施策の目標 (基本方針)	子育て世帯の不安を解消し、子どもを安心して産み育てることができるまちを目指す。 家庭・学校・地域が連携し、豊かな人間性・社会性を身につけた青少年の育成を目指す。	
《これまでの取組状況》		
○子育ての不安解消や親子が触れ合う機会の充実を図るため、家庭教育講座を実施している。 ○地域ぐるみでの青少年の健全育成を図るため、少年愛護センター指導員による街頭パトロールや青少年健全育成市民大会を開催している。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	成人・家庭教育事業	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
事業概要	講座・教室を開催する。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	子育てセミナー3教室、親子ふれあい広場5講座、親子ふれあい教室16教室、子ども教室1教室及び家庭教育学級を開催	子育てセミナー1教室、親子ふれあい広場2講座、親子ふれあい教室9教室、子ども教室1教室及び家庭教育学級を開催	親子ふれあい広場2講座、親子ふれあい教室16教室、子ども教室及び家庭教育学級3講座、寿教室4地区21教室、成人大学5講座を開催	
令和3年度の変更点・改善点	緊急事態宣言発令による新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子育てセミナー3講座、親子ふれあい広場3講座、寿教室3教室、成人大学前期5講座を中止した。			
事業名②	青少年教育事業	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
事業概要	少年愛護センター指導員が市内を巡回し、青少年に声かけを行うとともに、街頭啓発活動等を通じ、青少年の非行防止を図る。 地域ぐるみでの青少年の健全育成を図るため、青少年健全育成市民大会を開催する。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	指導員による声かけ人数893人 (全ての声かけ人数を表記) 青少年健全育成市民大会 7月6日(土)参加者数442人 中高生による事例発表、大会宣言、記念講演	指導員による声かけ人数257人 (全ての声かけ人数を表記) 青少年健全育成市民大会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	指導員による声かけ人数334人 (全ての声かけ人数を表記) 青少年健全育成市民大会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	
令和3年度の変更点・改善点	指導員による声かけは新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の期間中は中止とした。また、青少年健全育成市民大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。			

■ 教育委員会による評価(自己評価)

《令和3年度の実績・評価》
○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、成人大学前期講座、子育てセミナーでは全回を、親子ふれあい広場、寿教室では一部の回を中止し、他事業では延期する措置を行い事業を実施した。 ○青少年健全育成市民大会は前年度に続き中止とした、中高生の発表を広報紙に掲載した。
《課題および今後の方針》
○成人・家庭教育事業については、今後も対象者の興味をひくテーマや開催方法について検討していく。 ○引き続き感染症対策のうえで街頭パトロールを行っていくものとし、市民大会や指導員研修会等についても新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら実施していく。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
22	生涯学習施設整備事業	生涯学習課
施策の目標 (基本方針)	多くの生涯学習施設が、老朽化等により、大規模な改修を進める必要があるため、計画的に整備を図る。	
《これまでの取組状況》 ○各施設、設備等の改修工事を適宜進めている。 H27-29 市民会館改修工事（大ホール舞台機構） H28 武道館耐震補強ほか工事 H30 勤労青少年体育センター耐震補強ほか工事 R1 勤労青少年ホーム解体工事、市民会館改修工事（冷温水発生機） R2 勤労福祉会館改修工事（冷温水発生機）、稲沢公民館増築工事、稲沢公民館改修工事（空調設備ほか）、市民会館改修工事（自家用発電機、ワイヤレス音響設備）		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	祖父江生涯学習施設整備事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	祖父江町勤労青少年ホームが老朽化しているため、同ホームの公民館的機能を維持しつつ、祖父江町郷土資料館の展示スペースとシルバー人材センター祖父江支所の事務室等を取り込んだ施設として旧祖父江支所跡地に生涯学習施設（祖父江生涯学習センター「ソブエル」）を整備する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 祖父江生涯学習施設新築工事(R1、R2継続事業) 期間:R2.3.28~R3.2.20 契約金額:849,341,463円(R1 0円、R2 849,341,463円) 変更契約金額:840,034,246円 祖父江生涯学習施設新築工事監理業務委託(R1、R2継続事業) 期間:R2.3.28~R3.2.20 契約金額:19,353,182円(R1 0円、R2 19,353,182円) 祖父江生涯学習施設地中埋設物撤去工事 期間:R2.11.28~R3.2.20 契約金額:19,800,000円 	<ul style="list-style-type: none"> 祖父江町勤労青少年ホーム解体工事 期間:R3.6.10~R4.3.6 契約金額:57,865,500円 祖父江生涯学習センター外構工事 期間:R3.6.10~R4.3.6 契約金額:24,172,500円 	
令和3年度の変更点・改善点	祖父江町勤労青少年ホームの解体により高濃度PCBを新たに確認したため、処分に向け関係機関と調整を行った。		
事業名②	大里西公民館整備事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	平成26年度に実施した耐震診断の結果、耐震基準を満たしておらず、また、老朽化が進んでいるため、大里西公民館を移転整備する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場用地取得 ・実施設計業務委託 期間:R1.6.6~R2.3.1 契約金額:9,680,000円 	<ul style="list-style-type: none"> 新築工事 期間:R2.7.1~R3.3.27 契約金額:326,370,000円 監理業務委託 期間:R2.7.1~R3.3.27 契約金額:10,450,000円 	<ul style="list-style-type: none"> 解体工事 期間:R3.5.25~R4.3.20 契約金額:42,613,098円 駐車場整備工事 期間:R3.5.25~R4.3.20 契約金額:3,451,899円
令和3年度の変更点・改善点			

事業名③	市民会館特定天井耐震化事業		□新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	稲沢市民会館大ホール・中ホールの天井等落下防止対策を行うため、現地調査、設計、改修を行う。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	—	・市民会館改修工事(天井落下防止対策)基本設計業務委託 期間:R2.7.16~R3.2.10 契約金額:9,653,600円	・市民会館改修工事(天井落下防止対策)設計業務委託 期間:R3.7.1~R4.3.27 契約金額:18,700,000円
令和3年度の変更点・改善点	天井改修について特定天井を対象に限定して改修することに変更した。		

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
<p>○祖父江町勤労青少年ホームの解体後に祖父江生涯学習センターの利用者駐車場として整備し、51台分を新たに確保することができた。</p> <p>○大里西公民館は、同敷地内の消防団第6分団詰所とともに旧施設の解体と合わせて発注することで、効率的に事業を完了することができた。</p> <p>○市民会館実施設計において、大中ホール同時施工とはせず、どちらか利用可能となる設計とした。</p>
《課題および今後の方針》
<p>○祖父江生涯学習センター東側駐車場において、舗装整備ができていない部分を整備していく必要がある。</p> <p>○大里西公民館は、解体後の整地及び借地返還を速やかに実施する。</p> <p>○市民会館の天井工事は令和6年6月までの長期にわたって実施することになり、大中ホールそれぞれに定めた工事期間内に完了するよう常に進捗状況を把握する。</p>

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
23	スポーツ振興事業	スポーツ課
施策の目標 (基本方針)	スポーツ団体の育成、充実に努めることにより、市民がより多くのスポーツ行事に参加し、健康で明るい市民生活に寄与するとともに競技力の向上を図る。	
《これまでの取組状況》 ○地区体育振興会、スポーツ協会、スポーツレクリエーション協会、スポーツ少年団の活動に対して補助をしている。 ○地区体育振興会については、市町村合併以後、全地区で組織化され、地区住民の健康増進や体力づくりのためのさまざまな活動を実施している。スポーツ協会、スポーツレクリエーション協会、スポーツ少年団についても、健康増進はもとより、競技力の向上に努めている。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	スポーツ普及振興	<input type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	スポーツを通じて地域コミュニティの形成を図り、生涯スポーツ社会の実現を目指すとともに、総合型地域スポーツクラブを設立し、その育成を図る。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	総合型地域スポーツクラブは順調に活動している。祖父江地区では39教室、平和地区では25教室を事業計画通り開催することができた。参加者数については、祖父江地区が1,234人、平和地区が561人となっており、地域における生涯スポーツの拠点となっている。	総合型地域スポーツクラブは順調に活動しているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、祖父江地区では54教室中14教室が、平和地区では37教室中10教室が中止となっている。参加者数については、祖父江地区が877人、平和地区が243人となっている。	総合型地域スポーツクラブは新型コロナウイルス感染症予防対策を施し、順調に活動している。祖父江地区では58教室、平和地区では21教室を事業計画通り開催することができた。参加者数については、祖父江地区が1,242人、平和地区が335人となっている。	
令和3年度の変更点・改善点				
事業名②	スポーツ団体の育成・充実	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	地区体育振興会、スポーツ・レクリエーション事業参加者数を増やし、スポーツ団体の育成・充実に努める。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	補助事業の実施 スポーツ少年団 617,000円 地区体育振興会補助金 15地区 4,310,700円 体育協会 6,110,569円 スポーツレクリエーション協会 250,000円 スポーツ推進委員活動の推進指導者の育成	補助事業の実施 スポーツ少年団 617,000円 地区体育振興会補助金 12地区 365,511円 スポーツ協会 4,670,100円 スポーツレクリエーション協会 200,000円 スポーツ推進委員活動の推進指導者の育成	補助事業の実施 スポーツ少年団 617,000円 地区体育振興会補助金 9地区 755,760円 スポーツ協会 5,106,886円 スポーツレクリエーション協会 250,000円 スポーツ推進委員活動の推進指導者の育成	
令和3年度の変更点・改善点	地区体育振興会では、各地区で事業計画するも新型コロナウイルス感染症の影響により6地区で活動を休止した。			

事業名③	スポーツ振興基金の運営		□新規	□重点	☑継続
事業概要	優秀なスポーツ選手への助成、ジュニア選手の育成事業、スポーツを通して相互理解、競技力向上を目的としての交流事業を実施する。				
年 度	令和元年度		令和2年度		令和3年度
実施状況	優秀なジュニア選手への奨励金の交付(6人) 300,000円 助成事業 0円	優秀なジュニア選手への奨励金の交付(4人) 200,000円 助成事業 0円	優秀なジュニア選手への奨励金の交付(7人) 350,000円 助成事業 0円		
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ振興基金運営協議会を書面評決にて開催した。				

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
<p>○祖父江地区の総合型地域スポーツクラブにおいて、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、令和元年の水準まで戻すことができた。</p> <p>○地区体育振興会では、各地区で事業計画するも新型コロナウイルス感染症の影響により6地区で活動を休止した。</p> <p>○スポーツ振興基金により、優秀ジュニア選手への奨励金の交付を行ったが、育成のための助成事業については該当する団体はなかった。</p> <p>○トップアスリートによる中学校部活動の指導について、バレーボール競技が有料化されたため、市内中学校へ周知したことで活用することができた。また、トップアスリートトークショーは新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で中止となった。</p>
《課題および今後の方針》
<p>○豊田合成(株)所属のトップアスリートと地域連携活動を通じて、スポーツの普及振興を図る。</p> <p>○トップアスリートによる中学校部活動指導について、バレーボール競技が有料化されたため、より多くの生徒が指導を受けられるよう支援する。</p>

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
24	体育施設維持管理及び整備事業	スポーツ課
施策の目標 (基本方針)	公共体育施設の適切な管理運営及び利用の拡大を図るため、指定管理者制度を導入し、市民サービスの向上や経費の削減等を図る。 地域スポーツの振興に欠くことのできない学校体育施設の効率的な利用を推進し、市民の体力向上と健康の増進を図る。	
《これまでの取組状況》		
○指定管理者制度導入状況 祖父江の森（令和元年度～令和5年度）市民球場等（令和元年度～令和5年度） 総合体育館（令和元年度～令和5年度）祖父江町体育館（令和元年度～令和5年度） 平和町体育館等（令和元年度～令和5年度）		
○指定管理者の自主事業等については、各種教室の開催や季節ごとのイベントを行うなど市民サービスの向上に努めている。また、電気料等の経常的経費の見直しや施設修繕の早期対応等経費削減に努めている。		
○現在、市内の小学校23校と中学校9校の運動場と体育館並びに中学校の柔剣道場を開放しており、令和2年から新たに稲沢東高校のレスリング場を追加。地域でのスポーツ活動の中心的活動場所となっている。		
○運営にあたっては、小学校区単位で「学校開放運営協議会」を設置し、地域住民により自主管理を行っており、中学校においては「学校開放管理指導員」を置き、管理運営にあっている。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	公共体育施設の適切な管理運営及び利用の拡大		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	指定管理者により市民サービスの向上や経費の削減等を図る。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	利用実績 ・祖父江の森 166,222人 ・市民球場等 115,527人 ・総合体育館 94,720人 ・祖父江町体育館 102,466人 ・平和町体育館等 72,653人	利用実績 ・祖父江の森 50,587人 ・市民球場等 78,317人 ・総合体育館 39,575人 ・祖父江町体育館 56,778人 ・平和町体育館等 51,983人	利用実績 ・祖父江の森 93,392人 ・市民球場等 99,311人 ・総合体育館 18,731人 ・祖父江町体育館 45,683人 ・平和町体育館等 56,336人
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症の影響により9月4日から19日まで休館し、5月から10月及び1月から3月までの期間中、夜間の利用休止と市内在住、在勤、在学者のみの利用制限等を実施した。総合体育館は、改修工事に伴い8月から3月まで休館した。		
事業名②	学校開放体育施設の整備及び有効利用		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	小学校、中学校等の学校体育施設を有効利用し、安心安全に利用できるよう適宜整備を行う。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	利用実績 ・運動場 1,961件 ・体育館、柔剣道場 11,632件 ・夜間照明施設 353件 ・プール 2,310人	利用実績 ・運動場 1,555件 ・体育館、柔剣道場 2,980件 ・夜間照明施設 300件 ・プール 中止	利用実績 ・運動場 1,801件 ・体育館、柔剣道場 5,435件 ・夜間照明施設 257件 ・プール 1,671人
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症の影響により8月27日から9月30日まで、2月7日から3月21日まで利用休止し、5月、6月、8月、10月、1月と3月では、夜間の利用休止と市内在住、在勤、在学者のみの利用制限等を実施した。		

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○公共体育施設の管理運営について、新型コロナウイルス感染症の影響により、休館、時短等の様々な措置を取りながら、できる限り営業することができた。指定管理者との連絡・調整・報告等を密に行うことで、大きなトラブル等の発生も起きず、市民が安全に利用することができた。
○学校開放管理指導員、学校開放運営協議会との連絡調整を確実にし、迅速な対応に努めることで適切な管理運営ができた。
《課題および今後の方針》
○各体育施設の設備、備品等が老朽化しているため、日常の点検等を適切に行い、迅速に対応し、市民が安心安全に利用できるよう計画的に改修していく必要がある。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
25	体育施設整備事業	スポーツ課
施策の目標 (基本方針)	昭和50年代に建設された体育施設が多くあり、建設から約30年経過し、老朽化等により、大規模な改修を進める必要があるため、計画的に整備を図る。	
《これまでの取組状況》		
○各施設の改修工事を適宜進めている。		
令和元年度	市営井之口プール解体工事 総合体育館受変電設備工事 祖父江町体育館エレベーター改修工事	
令和2年度	祖父江の森改修工事（リニューアルほか）（令和元年～2年度継続事業） 総合体育館非常用照明装置取替工事	

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	総合体育館改修工事（天井落下防止対策ほか）	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input type="checkbox"/> 継続
事業概要	非構造部材の耐震補強工事を主とした改修工事	
事業計画	吊天井改修、ガラスの飛散防止、トップライト撤去、照明のLED化等	
実施状況	工事期間：令和3年7月2日～令和4年3月28日 契約金額：352,000,000円	
事業名②	総合体育館改修工事（空調設備）	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input type="checkbox"/> 継続
事業概要	空調設備の設置工事	
事業計画	体育館アリーナ及び観覧席に空調機器27台を設置、受変電設備の改修	
実施状況	工事期間：令和3年8月7日～令和4年3月4日 契約金額：91,300,000円	

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○総合体育館改修工事期間中は、アリーナ全面に足場資材が組まれるため、令和3年8月から令和4年3月末日まで休館した。工事は予定通り完了し、令和4年4月から開館できた。
○照明をLED化することで照度が上がり、また、アリーナ床面の研磨塗装しフロアコンディションを回復させることができた。体育館利用者から大変使いやすくなったと好評を得ている。
○体育館アリーナと観覧席に空調機器を27台設置したことにより、夏場の厳しい天候下でも快適に利用できる環境整備を行うことができた。
《課題および今後の方針》
○ゼロカーボンシティ宣言に向けて大規模な改修が必要な施設が複数あるため、計画的に進められるよう現状把握と改修工事計画の立案を進める。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
26	図書館資料の充実	図書館
施策の目標 (基本方針)	一般書、児童書、参考図書など図書資料、視聴覚資料の充実に努める。	
《これまでの取組状況》		
○令和4年3月末現在の蔵書数 図書 一般書：478,273冊 児童書：169,693冊 コミック：22,208冊 視聴覚資料 CD：12,781点 DVD：6,581点 郷土資料：17,567冊 大活字本：3,588冊（以上、一般書のうち） YA図書：17,430冊（以上、中央図書館児童書のうち）		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	図書資料の購入			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	一般書、児童書など図書資料を購入する。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	図書資料購入状況 一般書 9,613冊 19,935,340円 児童書 4,861冊 8,982,941円 コミック1,436冊 1,076,426円 合計 15,910冊 29,994,707円	図書資料購入状況 一般書 9,464冊 20,215,139円 児童書 4,622冊 8,714,531円 コミック1,368冊 1,066,239円 合計 15,454冊 29,995,909円	図書資料購入状況 一般書 8,433冊 17,773,035円 児童書 4,250冊 8,224,232円 コミック1,270冊 997,964円 合計 13,953冊 26,995,231円			
令和3年度の変更点・改善点	令和3年度は、未所蔵の市内文化財・建造物の修理報告書を購入した。					
事業名②	視聴覚資料の購入			<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	CD、DVDの視聴覚資料を購入する。					
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
実施状況	視聴覚資料購入状況 CD 101枚 420,038円 DVD 135枚 1,576,771円 合計 236枚 1,996,809円	視聴覚資料購入状況 CD 97枚 407,853円 DVD 131枚 1,589,771円 合計 228枚 1,997,624円	視聴覚資料購入状況 CD 159枚 651,414円 DVD 186枚 2,347,808円 合計 345枚 2,999,222円			
令和3年度の変更点・改善点	令和3年度は、尾西信用金庫様からの寄付300万円を視聴覚資料に充当したため、例年よりも予算増となった。そのため、各館のニーズにあった視聴覚資料の更なる充実をはかり、各館で「尾西信用金庫視聴覚ライブラリー」を設置した。					

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○図書の購入に関しては、予算減となり購入冊数が減ったが、購入計画に基づき計画的な購入を行った。 ○視聴覚資料に関しては、寄付に伴い各館で「尾西信用金庫視聴覚ライブラリー」を設置した。尾西信用金庫側からライブラリーの更なる充実のため令和4年度も寄付していただいた。
《課題および今後の方針》
○図書購入予算の確保が難しい中、社会的ニーズに対応する選書及び購入を計画的に行う必要がある。 ○視聴覚資料の購入に関しては、各館のバランスを図るため図書館間での調整が必要である。 ○電子図書館の導入及び電子書籍の充実を図る。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
27	図書館サービスの充実	図書館
施策の目標 (基本方針)	絵本の読み聞かせやブックスタート事業等乳幼児に対するサービス、施設見学、職場体験学習の受入れ等児童、青少年に対するサービス、リクエスト制度及び相互貸借制度の活用等成人に対するサービス、声の図書作成・郵送サービス、家庭文庫サービス等、高齢者、障害者に対するサービスの充実に努める。	
《これまでの取組状況》 ○図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせ等を、定期的に中央図書館及び祖父江の森図書館において実施。また、ブックスタート事業を、4か月児健康診査時に保健センター等において実施。 ○図書館への施設見学、職場体験学習等の受入れを実施。また、リクエスト制度及び相互貸借制度を活用し、利用者へのサービスを実施。 ○高齢者、障害者に対し、図書館ボランティアによる声の図書作成・郵送サービス、家庭文庫サービスを実施。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	乳幼児に対するサービスの充実	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	絵本の読み聞かせ及びブックスタート事業等を実施する。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	絵本の読み聞かせ等（乳幼児対象分） 中央：毎週火・毎月第2・3土、毎月第2水(11:00～11:30) 毎週土・日(14:00～14:30) 祖父江：毎月第1・2土、奇数月第3水(11:00～11:30) 平和：毎月第1土(14:00～14:30) ブックスタート事業 30回 絵本パック(2箇所)930人に配付	絵本の読み聞かせ等（乳幼児対象分） 中央、祖父江、平和とも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 ブックスタート事業 28回 絵本パック(2箇所) 918人に配付	絵本の読み聞かせ等（乳幼児対象分） 中央については一部再開したが、祖父江、平和については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 ブックスタート事業 30回 絵本パック(2箇所) 892人に配付	
令和3年度の変更点・改善点	令和2年度から読み聞かせやイベントは新型コロナウイルス感染予防のため中止していたが、令和3年度から読み聞かせを一部再開した。			
事業名②	児童、青少年、成人に対するサービスの充実	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	施設見学、職場体験学習の受入れ、児童閲覧室のテーマコーナーの充実を図る。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	小・中学校、児童・生徒の施設見学 17回 延べ779人 職場体験学習 延べ11日 延べ45人	小・中学校、児童・生徒の施設見学 13回 延べ491人 職場体験学習は中止	小・中学校、児童・生徒の施設見学 15回 延べ584人 職場体験学習は中止	
令和3年度の変更点・改善点	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夏休み親子教室は中止したが、令和3年度は実施した。映画会や講座については、新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら、参加人数を例年よりも減らして一部開催。中央図書館では、一般向け名作映画鑑賞会や布おもちゃ作製講座等を開催した。			
事業名③	高齢者、障害者に対するサービスの充実	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	声の図書作成・郵送サービス、家庭文庫サービスの充実を図る。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	家庭文庫 登録者2人に延べ96冊貸出 声の図書作成・郵送サービス 利用者16人に延べ188点貸出	家庭文庫 登録者2人に延べ96冊貸出 声の図書作成・郵送サービス 利用者17人に延べ219点貸出	家庭文庫 登録者2人に延べ96冊貸出 声の図書作成・郵送サービス 利用者17人に延べ226点貸出	
令和3年度の変更点・改善点	ボランティアの協力により、デイジー図書の増加を行った。新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら、デイジー図書編集講座を開催し、ボランティアの技術向上を図った。夏休み親子手話教室（福祉課主催）は中止とした。			

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○ボランティア団体による定例の読み聞かせ会を感染症対策を取り、一部再開した。 ○イベント・講座についても感染症対策を取り、参加人数を減らし大部分を実施した。
《課題および今後の方針》
○感染症対策のため中止になったYA向けイベントの開催。 ○高齢者及び障害者に対する資料の購入及び図書館サービスの充実。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
28	子ども読書活動推進	図書館
施策の目標 (基本方針)	子どもが自主的に読書活動を行うことができるように環境の整備を図る。	
《これまでの取組状況》		
○子ども読書活動推進計画を効果的に推進していくために図書館協議会において進行管理を実施。 ○「子ども読書の日」に因んで、イベントを開催。 ○11月を読書月間として、図書館ボランティアの協力により、絵本の読み聞かせなどのイベントを開催。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	子ども読書活動推進計画の進行管理		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	図書館協議会において子ども読書活動推進計画の進行管理を行っていく。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	第2次推進計画の総括を行い、その結果を踏まえて、第3次推進計画を策定した。	「家読(うちどく)」の啓発、「すくすくいなッピー」への情報提供を行った。	第3次計画第1回アンケート調査及び各機関の具体的な取組み状況調査の実施
令和3年度の変更点・改善点	一部の保育・幼稚園や小中高等学校に対して、子どもの読書活動に関するアンケートを実施した。また、各機関の実施事業を基に事業の継続状況等も行った。		
事業名②	子ども読書の日に因んでイベント開催		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	4月23日の子ども読書の日に因んだイベントを図書館ボランティアの協力により開催。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	開催期間 4月13日～27日 大型絵本のおはなし会、語りの会、お楽しみ会、こどものひろば、図書館探検ツアー、開催 5回 参加延べ人数280人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
令和3年度の変更点・改善点	毎年の恒例事業となっており、各ボランティアに各回異なるプログラムで実施していただいていたが、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。		
事業名③	読書週間に因んでイベント開催		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	全国読書週間(10月27日から11月9日)に因んでイベントを開催。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	開催期間 11月3日～30日 朗読のひとつき、大型絵本のおはなし会、秋の語りの会、秋のお楽しみ会、こどものひろばのイベントを開催 5回 参加延べ人数368人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。	開催期間 11月13日～14日 大型絵本の読み聞かせ(4組10人)、秋のおはなし会(3組7人)のイベントを開催
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止したが、大型絵本の読み聞かせ等一部を実施した。		

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○学校配本の団体貸出における受け渡し場所の拡大を実施した。（祖父江の森及び平和町図書館でも実施） ○第3次稲沢市子ども読書活動推進計画の進行管理をするにあたり、市内の子どもの読書環境の実態を把握することを目的とした「第1回子どもの読書活動に関するアンケート」及び各実施機関で実施している施策の実態調査を実施した。
《課題および今後の方針》
○第3次稲沢市子ども読書活動推進計画の進行管理をするにあたり、令和4年度も引き続き各実施機関で実施している施策の実態調査を実施する。 ○調査結果を各実施機関にフィードバックは行ったが、計画の目標値と差があるものもあり、どう近づけていくかが課題である。 ○各イベントについては、中止せずに感染症対策をとりながらやれる範囲で実施していく。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
29	収集・保存事業	美術館
施策の目標 (基本方針)	所蔵品の充実を図るため、美術品等購入基金を積み立てる。また、常設展示の充実を図るため、個人や法人から荻須作品の寄付・寄託を受ける。 貴重な荻須作品の劣化が進まないよう作品の保護、修復と劣化要因の除去を行う。	
《これまでの取組状況》 ○平成8年度以降、荻須作品を購入して所蔵作品の充実に努めてきた。 ○荻須作品所蔵者から作品寄付・寄託の申し出があった場合、収集委員会で審議した後、受け入れ、常設展で展示している。 ○平成14年度から所蔵作品をよりよく保存、展示するため、作品の劣化要因を除去するとともに展示効果の高い保護材を作品の額装に採用している。 ○平成27年度に所蔵品の増加に対応できるように、収蔵庫を増築しバックヤードを充実させた。 今後、良い作品があれば荻須作品を購入し、また寄付、寄託を受けるよう努める。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	荻須作品の収集		<input type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	<p>令和3年度末で所蔵する荻須の油彩画作品は38点であるが、常設展では主要作品を常時展示しており、作品を休めることができない。このため油彩画作品の所蔵点数を50点以上にすることで、常設展での作品の展示替えを可能にする。</p> <p>過去の購入点数：昭和55年度 2点、平成4年度 1点、平成8年度 2点、平成10年度 3点、平成13年度 2点、平成16年度 2点、平成19年度 2点、平成22年度 3点、平成25年度 1点、平成28年度 1点、令和2年度 2点 合計 21点 過去の寄付点数：昭和55年度 1点、昭和57年度 7点、昭和61年度 2点、平成17年度 1点、平成19年度 1点、平成23年度 1点、平成24年度 1点、平成26年度 1点、平成27年度 1点、平成28年度 1点 合計 17点 今後の購入計画：今後も良い作品があれば購入できるようにするため基金を積み立てる。</p>				
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・フィンランド在住の個人からリトグラフ1点、みよし市在住の個人から日本画1点の寄付の申出があり、収集委員会(1月16日開催)に諮った後、受理した。 ・美術品等購入基金への積立て 20,345,007円 (年度末残額：73,545,198円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・荻須の代表作《ガラージュ》30号を遺族から、また《ヴェネツィア、リオ・ディ・フォンテーゴ》60号を個人から、収集委員会(5月15日開催)に諮った後、購入した。財源として、美術品等購入基金繰入金を充当した。 ・美術品等購入基金 67,800,000円取り崩し 5,534,242円積立て (年度末残額：11,279,440円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術品等購入基金への積立て 14,982,801円 (年度末残額：26,262,241円) 		
令和3年度の変更点・改善点					

事業名②	寄託作品の受入れ			□新規 □重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	それぞれの所蔵家から、1年から3年までの期間で荻須作品の寄託を受入れている。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	寄託作品:油彩画10点、水彩画1点、資料1点 ※前年度からの継続分に加え、新たに可児市在住の個人及び愛西市在住の個人から荻須油彩画各1点の寄託の申出があった。新規寄託作品について収集委員会に諮り、受理した。	寄託作品:油彩画9点、水彩画1点、資料1点 ※受託していた油彩画1点《ヴェネツィア、リオ・ディ・フォンテーゴ》を購入したため、この1点を除く油彩画10点を前年度からの継続分として寄託を受入れている。	寄託作品:油彩画16点、水彩画1点、資料1点 ※前年度からの継続分に加え、新たに大阪の法人から油彩画6点、富山の法人から油彩画1点の寄託の申出があった。新規寄託作品について収集委員会(2月17日開催)に諮り、受理した。	
令和3年度の変更点・改善点	寄託申出に柔軟に対応するため、稲沢市美術館管理規則を改正した。			

■ 教育委員会による評価(自己評価)

《令和3年度の実績・評価》
○令和2年度に購入した油彩画《ヴェネツィア、リオ・ディ・フォンテーゴ》について、作品をより良好な状態で保存するため、額装を改良し黄袋と保管箱を作成した。 ○良い荻須作品が出た場合に購入できるよう、印刷物販売収入及び運用益に一般財源を合わせた14,982,801円を美術品等購入基金に積立てた。
《課題および今後の方針》
○作品の寄付または寄託の申出があった場合には、作品の調査を丁寧に行うとともに、収集委員会の審議により寄付・寄託が承認された作品を受け入れる。 ○荻須作品の情報提供があった場合、作品調査等を実施するなど、顕彰館として荻須作品の情報収集に努める。 ○作品を末永く良好な状態で保存展示できるよう、修復について、必要性を見極めながら実施していく。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
30	展示・公開事業	美術館
施策の目標 (基本方針)	稲沢市出身の洋画家荻須高德を顕彰、紹介する。また、市民の芸術作品を鑑賞する機会を提供するとともに作品発表の機会を設ける。	
《これまでの取組状況》		
○昭和58年の開館以来、常設で荻須高德展を開催し、年1回定期的に展示替を行っている。平成8年にアトリエ復元施設を建設し、公開している。		
○特別展として年1回、荻須高德や荻須に関連する作家等を紹介する展覧会を開催し、市民に鑑賞の機会を提供している。		
○美術館が開館した昭和58年から、美術館を担当課・会場として第20回以降の稲沢市民展と、昭和55年に荻須高德の提言により始まった絵になる町児童生徒絵画展を第4回以降年1回開催している。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	特別展・企画展の開催		□新規 <input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	特別展として年1回、荻須高德や荻須に関連する作家等を紹介する展覧会を開催し、荻須高德への理解がより一層深まるような企画を実施する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	<p>木村伊兵衛 パリ残像</p> <p>内容:昭和の日本を代表する写真家・木村伊兵衛が1954年及び1955年にパリを撮影したカラーフィルム作品87点等を展示した。</p> <p>会期:10月26日～12月8日(38日間) 観覧者数:4,409人(116人/日) 教育普及事業: ・講演会 期日:10月26日 対象:一般 参加:58人 ・子ども美術講座 期日:11月2・16日(2回開催) 対象:小学生 参加:計22人</p> <p>(助成金) コミュニティ助成事業助成金 3,900千円</p>	<p>牛島憲之展 府中市美術館コレクション</p> <p>内容:荻須と東京美術学校で同級生であり、昭和期の洋画壇で活躍した牛島憲之の作品を展示。日本の情趣をとらえ、深い静謐さを湛えた風景画を府中市美術館のコレクション47点により紹介した。</p> <p>会期:10月24日～12月6日(38日間) 観覧者数:2,143人(56人/日) 教育普及事業: ・講演会 期日:10月24日 対象:一般 参加:25人 ・子ども美術講座 期日:10月31日・11月7日(2回開催) 対象:小学生 参加:計28人</p> <p>(助成金) コミュニティ助成事業助成金 3,500千円</p>	<p>生誕120年記念 荻須高德展 ー私のパリ、パリの私ー 内容:荻須の画業を一望に鑑賞できるよう、パリの街並みを描いた作品を中心に、渡仏初期から晩年までの代表的な油彩画81点を展示。また、画文集に掲載された素描や収録された荻須のことばを展示紹介した。 会期:10月23日～12月19日(50日間) 観覧者数:10,208人(204人/日) 教育普及事業: ・遺族によるギャラリートーク 期日:10月23日 対象:一般 参加:30人 ・講演会 期日:11月3日 対象:一般 参加:25人 ・子ども講座 期日:10月31日・11月7日(2回開催) 対象:小学生 参加:計26人 (助成金) 芸術文化振興基金助成金 3,458千円 コミュニティ助成事業助成金 1,800千円 (公財)花王芸術・科学財団助成金 500千円</p>
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症対策のため、展示室への入場制限を行った。		

事業名②	荻須高德常設展、アトリエの公開		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	常設展では、荻須高德の画業が概観できるように展示するとともに、パネルで油彩作品を概説する。 アトリエの復元施設では、荻須が作品を制作した当時の雰囲気味わえるようにする。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	油彩 33点 (寄託作品 6点) 水彩 2点 リトグラフ 20点 素描 4点 タピスリー 1点 観覧者数:7,590人	油彩 31点 (寄託作品 6点) 水彩 4点 リトグラフ 4点 素描 4点 タピスリー 1点 観覧者数:4,228人	油彩 30点 (寄託作品 6点) 水彩 5点 (寄託作品 1点) リトグラフ 6点 素描 2点 タピスリー 1点 観覧者数:12,578人
令和3年度の変更点・改善点			
事業名③	市民展、絵になる町児童生徒絵画展の開催		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	それぞれの要項に従い作品を募集し、入賞・入選者を決定する。市民展は10月に、絵になる町児童生徒絵画展は1月に、入賞・入選作品を展示する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	市民展 会期:10月1日～14日(12日間) ※10月12日は台風のため休館 展示点数:170点 観覧者数:2,047人 絵になる町児童生徒絵画展 会期:1月4日～19日(13日間) 応募点数:727点 展示点数:250点 観覧者数:2,064人	市民展 会期:10月6日～18日(12日間) 展示点数:152点 観覧者数:2,426人 絵になる町児童生徒絵画展 会期:1月5日～17日(11日間) 応募点数:586点 展示点数:230点 観覧者数:2,038人	市民展 会期:10月5日～17日(12日間) 展示点数:155点 観覧者数:2,147人 絵になる町児童生徒絵画展 会期:1月4日～16日(11日間) 応募点数:828点 展示点数:250点 観覧者数:1,996人
令和3年度の変更点・改善点			

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
○特別展として荻須高德の生誕120年を記念して、画業の変遷を辿ることができるように当館の所蔵品及び日本各地の所蔵者から借用した81点にのぼる油彩画を一堂に集めて展示した。展示構成としては、「戦前パリ時代」、「戦後パリ時代」と時代順に展示し、作風の変化を体感できるようにした。中日新聞に加え、NHKなど様々なメディアに取り上げられ、コロナ禍にありながらも本展は来館者は1万人を超えた。また、アンケートでは9割にのぼる方々が展覧会内容に満足したと回答され、多くの方々に喜んでもらえる展覧会となった。
《課題および今後の方針》
○荻須高德を顕彰する世界で唯一の美術館として、荻須高德や荻須に関連する作家等を紹介する特別展を開催し、市民等への鑑賞の機会を提供していく。また市外の方にも幅広く発信し、来館者増に努める。 ○荻須及び荻須に関連する作家等を紹介する特別展の企画を通し市民への鑑賞の機会を提供するとともに荻須に関連する各種情報を収集し、調査研究を進める。 ○市民の文化芸術活動の拠点として、市民や児童生徒の制作、発表、鑑賞の場を提供するため、市民展や絵になる町児童生徒絵画展を継続していく。 ○展覧会や講座などの開催周知が広げられるよう今後も工夫しながら情報を発信していく。

■ 基本事項

番号	施策名	担当課
31	教育・普及事業	美術館
施策の目標 (基本方針)	作品の鑑賞とともに、実技の講座を開講することで、作品を制作する楽しさを感じられるようにする。また、市内の学校との連携により、鑑賞教育(郷土学習)の場を提供する。教育普及の一環として、研修生・実習生を受入れる。	
《これまでの取組状況》 ○市内の小中学校の要望に応え、美術館での鑑賞教育の場を提供している。また平成20年度からは学校教育課との協働で、市内の小学6年生全員が荻須高德の人と作品等についての鑑賞教育(郷土学習)を美術館で実施している。 ○平成22年度からは子どもわくわく美術講座を、平成25年度からはアートスタート、美術館大学パートナーシップ事業を実施している。 ○インターンシップ、職場体験学習などの研修生を受入れている。		

■ 令和3年度の主な取組

事業名①	学校との連携による鑑賞教育(郷土学習)の実施	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	学校教育課がバスを借り上げ、市内の小学6年生全員が来館し、荻須作品鑑賞等を行う。学芸員が解説を行う。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	10月29日から12月3日までのうちの9日間で、23校の教職員を含む1,399人を受入れた。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、児童一人でも鑑賞できるよう、例年作成している鑑賞パンフレットの内容を増補し、対象児童に配付。パンフレットを持参すれば展示室での模写を可とした。	11月5日から12月10日までのうちの11日間で、23校のうち22校の教職員を含む1,203人を受入れた。1校はコロナ禍において日程調整が困難で来館できなかった。	
令和3年度の変更点・改善点	新型コロナウイルス感染症対策のため、少人数に分け、時間を調整して鑑賞等を行った。			

事業名②	美術講座の開催	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	一般の方を対象とした美術に関する講座や、小学生を対象とした子どもわくわく美術講座を実施する。			
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●美術講座「はじめての書道」(10回講座) 対象:一般対象 参加:19人 ●ファミリーわくわく美術講座 段ボールアート「空想の椅子」(1回講座・2回開催) 対象:小学生と保護者 参加:計20組40人 ●親子美術講座アートスタート「いろ かたち どんな音？」(1回講座) 対象:1歳以上3歳未満の子どもと保護者 参加:10組20人 	<ul style="list-style-type: none"> ●美術講座「はじめての日本画」(10回講座) 対象:一般対象 参加:13人 ●子どもわくわく美術講座「自分の顔を絵に残そう！」(1回講座・2回開催) 対象:小学生 参加:計35人 ●親子美術講座アートスタート「えほんとおそび」(1回講座) 対象:1歳以上3歳未満の子どもと保護者 参加:3組6人 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもわくわく美術講座「お面を作ろう！」(2回講座・2回開催) 対象:小学生 参加:計27人 ●親子美術講座アートスタート「親子で色あそび」(1回講座) 対象:1歳以上3歳未満の子どもと保護者 参加:7組14人 ●ギャラリートーク(1回講座・2回開催) 対象:小学生と保護者、一般 参加:3組7人、10人 計17人 	
令和3年度の変更点・改善点	常設展示室の作品を学芸員が解説するギャラリートークを新たに開催した。			

事業名③	美術館大学パートナーシップ事業		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
事業概要	学生、教職員の人数に応じた年会費を納入していただくことで、学生証、教職員証の提示により、稲沢市荻須記念美術館の常設展及び稲沢市主催の特別展を無料で観覧できるもの。また、美術館と大学との協議により、提携して事業を企画実行する。		
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施状況	<p>美術館利用人数 名古屋文理大学 268人 愛知文教女子短期大学 226人</p> <p>●名古屋文理大学 ・情報メディア学科の学生が第56回稲沢市民展のポスターをデザインした。</p> <p>【サロン・ドゥ・パリ】 ・特別展鑑賞と、パリに関わる音楽を鑑賞する連携企画を実施。 期 日：11月4日 参加者：47人</p> <p>●愛知文教女子短期大学 【美術館で着物を楽しむ～鑑賞＋アフタヌーンティー】 ・着物を着て解説付きで特別展を鑑賞した後、市内飲食店にてアフタヌーンティーを賞味する連携企画を実施。 期 日：11月26日 参加者：17人</p>	<p>美術館利用人数 名古屋文理大学 105人 愛知文教女子短期大学 165人</p> <p>●名古屋文理大学 ・情報メディア学科の学生が第57回稲沢市民展のポスターをデザインした。</p> <p>【アート&コンサート】 ・特別展の鑑賞とあわせ、「耳で聴く絵画」をテーマにしたトークと絵画的情景をイメージさせる楽曲による演奏会を楽しむ連携企画を実施。 (協力：一般財団法人稲沢市文化振興財団) 期 日：11月15日 参加者：25人</p> <p>●愛知文教女子短期大学 【美術館で着物を楽しむ エスプリ・ドゥ・ナチュール】 ・着物を着てスライド解説を聞き、特別展を鑑賞した後、市内飲食店にて特別メニューを賞味する連携企画を実施。 期 日：11月27日 参加者：15人</p>	<p>美術館利用人数 名古屋文理大学 101人 愛知文教女子短期大学 62人</p> <p>●名古屋文理大学 ・情報メディア学科の学生が第58回稲沢市民展のポスターをデザインした。</p> <p>【アート&コンサート】 ・フランス映画と音楽をテーマとしたトークとミニコンサートを楽しんだ後に解説付きで特別展を鑑賞する連携企画を実施。 (協力：一般財団法人稲沢市文化振興財団) 期 日：11月21日 参加者：30人</p> <p>●愛知文教女子短期大学 ・生活文化学科の学生が、美術館周辺マップを作成した。</p> <p>【美術館で着物を楽しむ～鑑賞＋アフタヌーンティー】 ・着物を着て解説付きで特別展を鑑賞した後、市内飲食店にてアフタヌーンティーを賞味する連携企画を実施 期 日：11月26日 参加者：14人</p>
令和3年度の変更点・改善点	大学から学生へ特別展の情報発信をしてもらうことにより、学生の観覧を促した。		

■ 教育委員会による評価（自己評価）

《令和3年度の実績・評価》
<p>○令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した鑑賞教育を、少人数に分け、時間を調整することにより展示室内が密にならないように対策をして実施した。</p> <p>○常設展示室の作品を学芸員が解説するギャラリートークを初めて開催し、概ね好評を得られた。</p> <p>○美術館大学パートナーシップ事業の一環として、特別展において市内2大学と連携することにより、当館だけでは実施できない魅力的な企画を実施することができた。</p>
《課題および今後の方針》
<p>○美術館大学パートナーシップ事業において、引き続き大学との連携を深め、事業を展開していく。また、学生の来館者が増えるよう情報発信していく。</p> <p>○ギャラリートークの開催数を増やせるよう調整する。</p>